週刊 YEAR BOOK

1965
昭和40年

日録20世紀

5|27
平成9年5月27日発行
(毎週1回発行)第1巻第14号
¥560
講談社

ベトナムに米軍直接介入!

「ジャルパック」大ヒット! "海外旅行時代"に
遊び心に市民権、深夜番組「11PM」スタート
非常戒厳令下、日韓条約調印!

北爆、そしてダナンに3500人上陸
ついにアメリカがベトナム戦争に直接介入!

米軍による北爆開始は、泥沼のベトナム戦争介入への起点であるとともに、アメリカの栄光の時代の終わりを告げる狼煙でもあった。五輪景気の反動で、不況になった日本では、平連、反戦青年委が誕生し、60年代後半に本格化する政治の季節が幕を開ける。

▲9月13日、南部のクイニョン付近の海岸に上陸する米陸軍第1歩兵師団。この日2500人以上のアメリカ兵が南ベトナム

きりし
しとどめるこ
暗殺されたケネディ
就任した

共産主義の「ならずもの」を、
トナム民族解放戦線と
トナム民主共和
挑んだ

▲8月2日、米空母「ボン・ホーム・リチャード」艦上から発進し、北

▲米海兵隊は、解放戦線兵士が隠れひそむと思われる村々を次々に焼き払う。

◎表紙　ベトナム中部のバタンアン岬掃討作戦で捕らえられ、目と口をテープでおおわれた解放

北爆、そしてダナンに3500人上陸
ついにアメリカがベトナム戦争に直接介入!

米軍による北爆開始は、泥沼のベトナム戦争介入への起点であるとともに、アメリカの栄光の時代の終わりを告げる狼煙でもあった。五輪景気の反動で、不況になった日本では、ベ平連、反戦青年委が誕生し、60年代後半に本格化する政治の季節が幕を開ける。

▲米海兵隊は、解放戦線兵士が隠れひそむと思われる村々を次々に焼き払う。しかし彼らは、米軍が到着する前に立ち去るのが常だった(1965年12月)。 嶋元啓三郎

◎表紙　ベトナム中部のバタンアン岬掃討作戦で捕らえられ、目と口をテープでおおわれた解放戦線兵士。 ポール・シュッツアー(LIFE) PPS

▲9月13日、南部のクイニョン付近の海岸に上陸する米陸軍第1歩兵師団。この日2500人以上のアメリカ兵が南ベトナムに到着した。 沢田教一

二月七日、ついに北爆開始 直接対決の扉が開かれた

「ある日ならずものを庭に入れたら、翌日には玄関に来て、その翌日にはベッドでワイフが強姦される羽目(はめ)になる。これを阻止するためには、相手の意図がはっきりしたり、疑わしいと思った瞬間に押しとどめることだ」

暗殺されたケネディに代わって二年前に米国大統領に就任したジョンソンは、一九六五年、ベトナム共和国(南ベトナム)から共産主義の「ならずもの」を一掃するべく、南ベトナム民族解放戦線とホー・チ・ミン率いるベトナム民主共和国(北ベトナム)に直接対決を挑んだ。

前年の八月二日と四日、偵察中の米駆逐艦がトンキン湾で北ベトナム軍の哨戒(しょうかい)艇から魚雷攻撃を受ける(トンキン湾事件)と、すでにその年の三月から報復攻撃の準備をしていた米軍は、八月五日、すぐさま北ベトナムの海軍基地に報復爆撃を加えた。この時、議会で可決された「トンキン湾決議」で戦争権限を掌握し

▲8月2日、米空母「ボン・ホーム・リチャード」艦上から発進し、北爆に向かう戦闘機。 沢田教一

▲9月6日、米軍の攻撃から逃れて川を渡る2組の親子。クイニョン北部、ロクチュアンの村で。この写真は、「安全への逃避」と題されて、ピュリッツァー賞を受賞。 沢田教一 CORBIS-BETTMANN PPS

ていたジョンソンにとって必要なのは、直接軍事介入の〝口実〟だけだったのだ。

一九六五年二月七日、ベトナム中部のプレークで解放戦線の攻撃を受け八五人の米兵が死傷すると、ジョンソンは迷わず報復を命令。その日のうちに三隻の空母から飛び立った八三機の米軍機が、北緯一七度線（停戦ライン）を越え北ベトナム領内への爆撃（北爆）を決行した。

続いて三月二日にはタイ領内の基地から一五〇機が出撃。北ベトナムの弾薬補給所に大損害を与えた。この日を境に北爆は恒常化し、一九六五年だけで延べ六万一〇〇〇機が出撃することになる。

さらに一九六五年三月八日、沖縄駐留の海兵隊二個大隊、地対空ミサイル部隊など米兵三五〇〇人が、ベトナム中部のダナンに上陸。南ベトナムの少女たちの花束に迎えられた彼らは、最初の本格的な地上兵力としてベトナムの土を踏んだ。以後一一月までに一九万人の地上兵力が投入され、翌六六年から本格的な地上作戦が開始されると、米兵はジャングルに続々と踏みこんでいった。六七年二月に悪名高い枯れ葉剤散布も始まったが、ソ連、中国の支援を受けた「ならずもの」の勢いは増すばかり。アメリカの軍事行動は日に日にエスカレートしていく。

「アメリカは初め、自分の力を見せつければ相手は屈服すると思っていた。しかし、北爆の効果が思うようにあがらない。次はいけるだろう、今度は大丈夫だろうと、どんどんエスカレートするうちに、気がついてみたら泥沼にはまっていた。ギャンブルにのめりこむのと同じで、ベトナム戦争は典型的な〝ギャンブラーの誤謬〟だったと言えます」（青山学院大学・国際政治学・土山實男教授）

翌六六年には二四・三トンの爆弾を搭載する巨大爆撃機B52も投入され、北爆は本格化する。最盛期の六七年には延べ一九万一〇〇〇機が出撃し、最終的には総計六四万三〇〇〇トンもの爆弾が、北ベトナムに投下された。兵力も急速に増強され、ケネディ政権末期、一万七千人余の軍事顧問団だけだったベトナム駐留米軍は、六九年四月末には、ベトナム戦争中最多の五四万三〇〇〇人に膨れ上がっていった。

ベトナム戦争が葬ったもうひとつの全面戦争

ベトナム戦争に終止符を打つまでに、アメリカは一三八九億七四〇〇万ドル、GNPの約四倍もの戦費をつぎこんだが、死者五万八〇〇二人、行方不明一〇四一人という惨憺たる結果を残しベトナムから完全に手を引く。解放勢力が迫る中、南ベトナムの首都サイゴンから最後のアメリカ人が撤退したのは北爆開始後一〇年目、七五年四月二九日のことだった。

そして、皮肉なことにベトナム戦争は、ジョンソンが国内で仕掛けたもうひとつの戦争＝「貧困との全面戦争」を葬り去ってしまった。ベトナム戦争が激化する中、社会福祉の充実や差別撤廃をめざす「偉大な社会」計画の予算は、削られていったのだ。

「ベトナム戦争で第二次世界大戦後続いてきたアメリカの黄金時代は、ターニングポイントを迎えました。ジョンソンは当初、アメリカの経済力があれば『偉大な社会』計画もベトナムでの戦争も両立できると考えていたのです。しかし莫大な金に裏づけられたドルの信頼は揺らぎ、ベトナム戦争をきっかけに金本位制も撤廃されます。また軍事的にも敗北し、『正義の国』というレッテルもはがれ、アメリカは世界の指導者という地位から転落し始めたのです」（文教大学・アメリカ地域研究・宮本倫好教授）

飢えているものには食料、ホームレスには家、黒人には法的保護、障害者にはリハビリ施設など、ジョンソンの描いた夢とアメリカの栄光は、ベトナムにばらまかれた砲爆弾とともに消えてしまった。

北爆、そしてダナンに3500人上陸 ついにアメリカがベトナム戦争に直接介入！

アメリカのベトナム戦争介入略年表

▲稲を運ぶ北ベトナム農民と米軍機来襲に備える高射砲隊。

1941年5月19日	●ベトナム独立同盟会（ベトミン）結成
1945年9月 2日	●ベトナム民主共和国独立宣言
1946年	●ベトミンとフランス軍戦闘状態に
1954年5月 7日	●ディエンビエンフーでフランス軍陥落
1960年9月 5日	●ベトナム労働党大会、「南」の武力解放方針決定
12月20日	●南ベトナム民族解放戦線樹立
1962年2月 8日	●米、南ベトナム援助軍司令部（MACV）設置
1964年5月23日	●米、北爆実施計画作成
8月 2日	●トンキン湾事件。ジョンソン、報復爆撃命令
1965年2月 7日	●米、北爆開始
3月 8日	●米海兵隊、ダナン上陸
6月22日	●米、ハノイ北西を爆撃
7月29日	●B52が沖縄を発進、南ベトナム爆撃
12月 3日	●米、ホー・チ・ミン・ルート妨害のためラオス爆撃
1966年10月3日	●米派兵数32万8000人に。朝鮮戦争を上回る
1968年1月30日	●北・解放戦線テト攻勢、米大使館を一時占拠
5月13日	●米・北ベトナム、第1回パリ和平会談
1969年4月30日	●米派兵数54万3000人に
6月 8日	●南ベトナム共和国臨時革命政府樹立
7月25日	●ニクソン、米軍撤退含むグアムドクトリン発表
1972年5月 8日	●ニクソン、北の全港湾を機雷封鎖、北爆激化
10月22日	●ニクソン、北の和平提案に同意
1973年1月15日	●ニクソン、北への敵対行為中止を命令
1月27日	●ベトナム和平協定に調印、翌日停戦発効
3月29日	●米軍撤退完了。ニクソン、戦争終結宣言
1975年4月30日	●サイゴン陥落、ベトナム共和国消滅

▶捕らえた解放戦線兵士を、ヘリコプターで移送する米軍。

ARCHIVE PHOTOS アメリカン・フォト・ライブラリー

欧州一六日間コースが六七万五〇〇〇円
「ジャルパック」大ヒット! 〝海外旅行時代〟が始まった

▲「ジャルパック」第一陣が搭乗前に記念撮影。出国は万歳で見送られ、帰国時も大勢の人に出迎えられた。この頃の海外旅行は一生に一度の晴れ舞台だったのである。 日本航空提供

海外旅行が解禁され、〝第二の開国〟を迎えた日本に「ジャルパック」が誕生した。「コンダクターがご案内」「日本語でも心配ありません」「支払いはお帰りになってから月賦でどうぞ」というキャッチフレーズが人気を博し、日本人の熱い視線が海外に向けられることになった。

発売後わずか一ヵ月で予約が二〇〇〇人突破

昭和四〇年一月二〇日、日本航空によるパッケージツアー「ジャルパック」五種七コースが、四七の旅行代理店から発売された。

その中身は、航空運賃、ホテル代、観光などをパックにし、たとえばハワイコース九日間、三七万八〇〇〇円というように、どこに、いくらで、何日間行けるかを具体的に示したものだ。

新しい旅行のスタイルを提案したこの新商品は人気を集め、発売一ヵ月で予約がたちまち二〇〇〇人を突破、八月二〇日には、一〇月から翌年三月にかけて実施分の第二弾が発売された。

「ジャルパック」の第一陣二〇人が羽田空港からヨーロッパに飛び立ったのは四月一〇日のことだ。

当時、大卒の初任給が約二万円という時代に、ヨーロッパ一六日間で六七万五〇〇〇円という料金は、庶民にとってはまだまだ高嶺(たかね)の花で、ツアー参加者の顔ぶれは会社顧問や中小企業の社長、地方の自営業など、五〇代、六〇代の夫婦連れが多かった。

前例がないために珍事も続出した。当時「ジャルパック」のツアー・コンダクターで、現在は、昭和四四年に日本航空から旅行業務を引き継いだ旅行開発(JCT)㈱の販売部に所属する唐沢恒四郎氏は次のように語る。

「ほとんどが初めての海外旅行者。何度もパスポートのことや現地でのマナーなどについて説明会を開きました。また、結成式を催したり出発前に機外での記念撮影なども行われ、今考えると仰々(ぎょうぎょう)しいかぎりでした。現地のホテルではバスタブのお湯をあふれさせる人、ドアのノブを壊す人、はたまた、ベッドメイクされた毛布やシーツの上に寝こんでしまい、翌朝風邪をひいたと文句を言う人などもいましたよ」

当時、航空会社が旅行業を営むのはお門違いという声もあったが、不特定多数の人々の海外への関心を掘り起こし、ニーズを拡大するには、航空会社の海外での情報収集力や資金力、宣伝力がどうしても必要であった。

「ジャルパック」による海外旅行者は順調に伸び続けた。初年度の四〇年は、二一九二人。五年後には五八二三人、「ジャルパック」以外のものを含めた年間の海外旅行者数はそれぞれ、一五万八八二七人、三四万三五四二人であった。

熟年層や新婚旅行組をターゲットにして発売

日本人の海外旅行が自由化されたのは昭和三九年四月一日、東京オリンピックが開かれた年であった。それまで日本政府は輸出を拡大するために外貨の獲得を最優先し、観光旅行はもちろん、留学や文化交流ですら外貨の持ち出しを厳しく制限していた。

▶パック旅行なら、集合場所さえ知っていれば、お年寄りでも気軽に海外へ行ける。 渡部雄吉

しかし、この年の三月一一日、IMF（国際通貨基金）理事会で、日本の「八条国」移行が承認されたことで、経常取引での国際収支を理由に為替制限ができなくなった。そのため海外旅行も、外貨事情を理由に制限することができなくなり、自由化されたのである。

解禁後の海外旅行第一陣は日本交通公社が主催した四月六日発の「ヨーロピアン・ジェット・トラベル」の一行一六人で、その中には作家の中村武志（五六）も、三年前から積み立てていた四五万円に、雑誌社から旅行記の原稿料の前借りをしてこのツアーに参加していた。「チップの心配もいらないし、第一、外国語のヘタな私には、ありがたい。それに、旅行は身銭を切らなくちゃ」と語って羽田を飛び立った。

三九年には「一人年一回、外国への持ち出しは五〇〇ドルと日本円二万円」だった制限も、次第に緩和されていった。こうした流れはジャルパックのねらいにもそうものだった。さらにGITという団体運賃の導入で航空運賃が従来の六〇%割引きになったことや、ジャンボ旅客機の就航で一度に多くの人を海外に送り出すことができるようになり、海外旅行ブームに火がついた。

高度経済成長により、生活にも余裕が生まれ、余暇もふえるなど、日本人のライフスタイルの変化もその流れに拍車をかけた。

以後、日本人の海外旅行熱は高まるばかりである。「ジャルパック」を育てあげた、旅行開発㈱の元社長で現在相談役の若木孝之氏は次のように語る。

「日本人は異質で未知なものに対する興味や関心を強く抱いている民族です。江戸時代、東海道は世界一の交通量を誇っていました。海外への渡航が自由になれば、その目が海外に向くのは当然のことです。

発売にあたって、当初は経済的に余裕のある熟年層や新婚旅行組などを対象にしました。ツアー商品は目に見えず、参加しなければ優劣がわかりませんから、価格より品質にこだわるお客をターゲットにし、一流のホテルや高級レストランの食事を組みこみ、ハイクオリティなものにして、ほかの商品との違いを明確にしたのです」

今日、日本人の海外渡航者は、一五二九万八一二五人（平成七年）で、観光を目的とした人の数は一二六八万五一五五人と、その八二・九%にものぼっている。パック旅行は今や海外旅行の定番として広く日本社会に定着したのである。

▶日本航空のスチュワーデスの制服は、色やデザインが変わるたびに話題を呼んだ。左から昭和二六～二九年、二九～三五年、三五～四二年。 日本航空提供

▼海外旅行自由化1年目に、いたれりつくせりのパッケージツアーが登場。欧米の豊かさへの憧れが、次第に現実のものに。

女たちの肖像

「うなり」を武器に歌屋・都はるみ紅白に最年少出場

稲葉真弓

都はるみの「涙の連絡船」がミリオンセラーの大ヒット曲になったのは、彼女が「困るのことヨ」でデビュー、「アンコ椿は恋の花」で大ヒットを飛ばしてからわずか一年目のこの年のこと。年末には最年少の一七歳で「NHK紅白歌合戦」に初出場を飾り、以後一九回連続出場と、歌手としての黄金時代を築くことになった。

出身地は京都・西陣。幼児期から機織りの音に混じって聞こえる母の浪曲や民謡に親しんだ彼女は、抜群に歌のうまい少女だった。小学校に入る頃から日本舞踊やバレエを習い、ついに歌謡学院に通うようになったのも母親の意思があったからだという。「うなり」の特訓をしたのも母親で、「うなれ、うなれ」という声をかたわらに独特の唱法を身につけていった。

彼女が「うなり」を武器に歌手の道を歩き始めたのは、昭和三八年「コロムビア全国歌謡コンクール」で優勝してからである。作詞家の星野哲郎はたまたまデビューしたばかりの彼女の歌を聞くことになったが、「この子のために詞を書きたい」と体中に震えが走るほどの興奮をおぼえたという。

以後の彼女は「さよなら列車」「好きになった人」「大阪しぐれ」など次々とヒットを飛ばすのだが、私生活は波乱万丈。五三年、初恋の人・歌手の朝月景一と結婚したが四年で破局。五八年にはコロムビアの担当ディレクターとの不倫をみずから告白。そして五九年には「普通のおばさんになりたい」という名文句を残して引退宣言。この引退は親交のあった作家の中上健次に「美しい自殺」と言わしめたほど衝撃的なものだったが、六二年新人発掘のため音楽プロデューサーとして芸能界に復帰した。しかし彼女の中に流れる〝演歌の血〟は消えなかった。平成元年、「紅白」四〇周年記念に歌手として出場したことで再び「歌うこと」への思いが燃え上がった。〝宿命〟のようなものだろう。翌年二月、歌手復帰コンサートがNHKホールで行われたが、チケットは一時間半で完売、熱狂的に迎えられた。

現在彼女は野外コンサート、全国ツアーと大活躍。みずから称する「歌屋」という言い方にしても、紆余曲折のはてにたどり着いた気負いやてらいのない、正真正銘の実感に違いない。

▲昭和40年代、〝艶歌ルネッサンス〟の先頭に立った。

勝者・敗者

「黄金のバンタム」ついに敗北 日本人初！二階級を制覇したファイティング原田のラッシュ

阿部珠樹

「黄金のバンタム」

それがエデル・ジョフレ（二九）のニックネームだった。デビュー以来四九戦四六勝三分け、三年にわたって世界バンタム級の王座に君臨し続けるジョフレに、落日などないように思われた。しかし、ブラジル人ジョフレの築いた帝国は、地球の裏側の日本で、もろくも崩れ去る。

五月一八日、ジョフレは名古屋で、ファイティング原田（二二）の挑戦を受けた。二年前、原田に匹敵する才能の持ち主といわれた青木勝利を鮮やかなKOで破ったジョフレにとって、フライ級のチャンピオンだったとはいえ、階級をあげて王座に挑む原田は楽な相手に思われた。下馬評も圧倒的にジョフレ有利、原田の勝ちを予想するものはほとんどなかった。

しかし、原田はその予想を大きくくつがえすみごとなファイトを見せる。第一ラウンドに先制攻撃をかけて主導権を握ると、四ラウンドには右アッパーでジョフレをロープ際に追いつめ、猛然とラッシュをかける。まるで火がついたように、休むことなく打ちまくるラッシュが原田の最大の持ち味だった。ダウンこそ奪えなかったが、この攻勢で、原田の優位は動かしがたいものになった。

しかし、ジョフレもチャンピオンの誇りにかけて、反撃を開始する。後半には疲れの見えた原田を、しばしばグラつかせるシーンもあった。しかし、長く王座に君臨し続けたジョフレに、若い原田を倒す決定的な力は残っていなかった。試合は判定に持ちこまれたが、わずかの差で原田がジョフレをおさえ逃げきった。日本人初の二階級制覇がなしとげられたのである。

「相手が無敗だということに闘志をかきたてられた。無敗なら一敗させてやろう。そういう気持ちで闘いました」

不精髭の原田は、まだあどけなさの残る顔で喜びを語った。この原田の勝利をきっかけに、日本ボクシング界は、昭和四〇年代の黄金時代に突入していく。

◀原田は、昭和43年、ライオネル・ローズに敗れた後、フェザー級に転向。3階級制覇の夢に2度挑戦したが惜敗し、引退した。

毎日新聞社

▼**解放戦線の少年を銃殺（1月29日）**前年8月のトンキン湾事件以来、緊張が続くベトナムのサイゴン中央市場で行われた公開処刑。柱を背に目隠しされた19歳の少年を10人の憲兵が撃った。

▲**長嶋茂雄（28）、結婚（1月26日）**東京五輪のコンパニオン・西村亜希子さん（22）と東京のカトリック渋谷教会で挙式。教会前は巨人軍の看板打者の晴れ姿を見ようとするファンで大混雑となった。

読売新聞社

▲**新年の京都タワー（1月）**地元文化人の反対の中、前年末に開業。9階建てホテルの上にタワーが伸び、地上100メートルの展望室から古都全景が見渡せ、正月の見物客は多かった。

毎日新聞社

▶**伊豆大島で大火（1月11日）**深夜11時に元町の寿司屋から出火、強風のため7時間も燃え続け、町の3分の1にあたる567棟1273人が被災した。原因はタバコの不始末。幸い死傷者はなかった。

秋元啓一／朝日新聞社

朝日新聞社

▶**慶大学費値上げ反対闘争（1月28日）**13万円を40年度から28万5000円にするとの決定に学生自治会が反対、初の全学ストに入った。写真はスト決行中の三田校舎。塾側の妥協案提示で2月5日解決した。

昭和40年1月

1（金）●静岡県山岳連盟、トランシーバーでの富士山―北アルプス―南アルプス間山岳通信に成功。
2（土）●石川県の白山比咩神社でおみくじ代など盗難。
3（日）●横浜市で晴れ着に硫酸をかけられる女性の被害者が一日からこの日までに一六人。
4（月）●警察庁、前年の交通事故による死者は一万三三〇一人で戦後最悪と発表。
5（火）●前年の農協預金が二兆円を突破と農林中金。
6（水）●高杉晋一、日韓会談首席代表への就任を受諾。
7（木）●大型電算機の国産化が相次ぐ、と新聞に。
8（金）●韓国政府、南ベトナムへの派兵を発表。
9（土）●神田博厚相、医療費の九・五％値上げを告示。
10（日）●大相撲で「部屋別総当たり制」が始まる。
11（月）●中教審、「期待される人間像」の中間草案発表。
12（火）●粗鋼生産は米ソに次ぎ三位に、と鉄鋼連盟。
13（水）●訪米中の佐藤首相とジョンソン米大統領、日米共同声明発表。沖縄返還に進展なし。
14（木）●トヨタ自販、三九年の国産車販売台数は一〇三万台で前年比三一％増と発表。
15（金）●好川橿原市長、成人式で「教育勅語」を配布。
●三國連太郎、左幸子主演の「飢餓海峡」封切。
16（土）●厚生省、公害防止対策審議会の新設など四〇年度公害対策の概要を発表。
17（日）●第一・三日曜の夕刊廃止に（4月から全廃）。
18（月）●厚生省、虫歯予防でフッ素使用手引書を作成、上水道フッ素対策委に提案を決定。
19（火）●文部省、新設する工業高専七校の概要を発表。
20（水）●日航、海外団体旅行用の「ジャルパック」発売。
●パンアメリカン航空、機内で映画放映と発表。
21（木）●インドネシア、国連を脱退。加盟国で初めて。
22（金）●閣議、中期経済計画（39～43年度）を決定。
23（土）●警視庁の野良猫捕獲許可に動物愛護団体が抗議したため、業者が捕獲中止を発表。
24（日）●暴力団連合「関東会」、理事会で解散を決定。
25（月）●東京放送、大相撲のテレビ中継中止を発表。
26（火）●長嶋茂雄、東京・渋谷の教会で結婚式。
27（水）●石油資源開発、新潟県三島町の地下二千三、四百㍍の地点で天然ガス田を発見と発表。
28（木）●慶大自治会、学費値上げ反対で初の全学スト。
29（金）●文部省、僻地教員の特別昇給制度実施を通達。
30（土）●チャーチル元英首相の国葬（24日死去）に、日本からは岸元首相が参列。
31（日）●東大宇宙航空研、「ラムダ3型二号」の打ち上げに成功。高度一〇四〇㌔は国内新記録。

ニュース・ファイル

1965

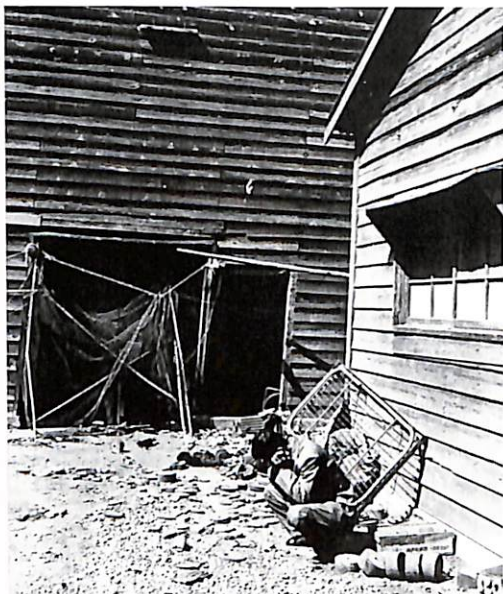
フォト＋日録で再現する365日

日本や家庭を愛する人となれとする「期待される人間像」が発表された。しかし、四〇年不況が進む中、四月にはべ平連が組織され、また日韓基本条約反対のデモが繰り広げられるなど、期待とは裏腹に既成権力に対する国民の不満は根強かった。

◀**まるで機動隊のデモ行進（11月12日）**政府が強行をはかる日韓条約締結に対し、広範な阻止闘争が起こった。写真は衆院採決を前にした反日共系全学連のデモ。機動隊は厳戒態勢でのぞみ、サンドイッチ作戦を実施。

朝日新聞社

▲米軍、北爆開始（2月7日）南ベトナム民族解放戦線の米軍基地攻撃への報復を理由に、北ベトナムの軍事施設ドンホイを攻撃。ベトナム戦争は一挙に拡大に向かった。写真は高性能爆弾を積んで飛び立つ米軍爆撃機。

沢田教一

共同通信社

▲佐世保で再び「原潜帰れ」（2月2日）前年11月の入港時、安全性に問題があり、核の持ちこみをもたらすと激しい抗議を受けた米原潜「シードラゴン」が2度目の寄港。また、寄港阻止のシュプレヒコールをあびた。

▶危険な風邪薬（2月20日）A2型インフルエンザが猛威をふるう中で、写真のようなピリン系アンプル入り風邪薬で死亡する人が目立ち始めた。厚生省はピリン系の風邪薬の販売停止を要請、メーカーがこれに応じた。

共同通信社

▼北炭夕張鉱で爆発（2月22日）北海道炭砿汽船・夕張鉱業所の坑口奥、およそ2000メートルにある採炭現場でガス爆発が起こり、78人が立ちこめた炭塵に閉じこめられ救出は難航、うち61人が死亡、17人も火傷を負った。北海道では戦後最大の炭鉱事故となった。

読売新聞社

◀「三矢研究」で政府追及（2月10日）北朝鮮の韓国攻撃に対応する、日米防衛体制を研究課題とした防衛庁統幕会議の秘密文書を、社会党の岡田春夫議員が入手、軍事クーデターをくわだてるものとして政府に迫った。写真は審議中断の衆院予算委員会。結局、文書漏洩の責任で防衛次官以下26人が戒告処分となった。

毎日新聞社

昭和40年2月

- 1（月）●原水協から社会党・総評系が分裂し、原水爆禁止国民会議（原水禁）を結成。
- ●村上雅則、大リーグに在籍のまま南海と契約。
- 2（火）●米原潜「シードラゴン」が佐世保に入港。
- 3（水）●首相、「建国記念の日」を二月一一日にと表明。
- 4（木）●中央公論社、『日本の歴史』刊行開始。
- 5（金）●自衛隊、初の統合防空演習を全国で行う。
- 6（土）●北海道のタンチョウヅルの餌不足に、全国から餌や現金が届きこの冬は大丈夫と新聞に。
- 7（日）●米軍、北爆を開始（3月2日本格化）。
- 8（月）●東京の私立松蔭女子高で、「女は掃除だけしていればよい」という学校に抗議しスト。
- 9（火）●文部省、成績の「A・B・C評価」の廃止など幼稚園の指導要録改正を通達。
- 10（水）●社会党、衆院予算委で「三矢研究」を暴露。
- ●三菱重工、世界初のサンドイッチ自動製造・包装機を完成、展示会を開く。
- 11（木）●池田商店、日本初の宝石割賦販売を始める。
- 12（金）●前年の失業者三七万人で戦後最低と総理府。
- 13（土）●鈴木恵一、世界スピードスケート大会で優勝。
- 14（日）●東京二三区と全道府県庁所在地とを結ぶ、ダイヤル即時通話網が完成。
- ●全民放四六社が共同で小児麻痺救済チャリティー番組を放送。
- 15（月）●ミヤコ蝶々・南都雄二のテレビ番組「夫婦善哉」、公開番組初の海外収録でハワイに出発。
- 16（火）●車掌不足の都バスがワンマンカーの運転開始。
- 17（水）●日航と全日空、過当競争を避ける覚書に調印。
- 18（木）●警察庁、三九年の『ひき逃げ白書』発表。死者五四九人、重軽傷者一万三一九〇人。
- 19（金）●運輸省、三菱重工製造のYS11に次ぐ多用途量産機、MU2に型式証明を給付。
- 20（土）●アンプル入り風邪薬による死亡事故が続き、大正製薬とエスエス製薬が販売を停止。
- 21（日）●米黒人運動指導者・マルコムX、暗殺される。
- 22（月）●夕張市の北炭夕張鉱でガス爆発。六一人死亡。
- 23（火）●東京で出稼ぎ者の初の全国総決起大会開催。
- 24（水）●東京地裁、交通事故死で同地裁過去最高の七二九万円の損害賠償支払いを命令。
- 25（木）●文部省、帰国子女のために東京学芸大附属大泉中学に特別教育学級の新設を決定。
- 26（金）●公取委、高額懸賞つき販売業者に排除命令。
- 27（土）●職安職員の汚職続発に労働省が綱紀粛正指示。
- 28（日）●新治伸治、東大出身で初のプロ野球選手に。

沖縄タイムス

朝日新聞社

◀第1回自動販売機ショー（3月5日）東京・新宿の京王百貨店で約200種類を陳列して開催。中には時間貸しのヘアドライヤーやカラー写真を映し出すジュークボックスなどもあり、人手不足に悩む商店主などの関心を呼んだ。

▲イリオモテヤマネコの生息確認（3月14日）作家・戸川幸夫が持ち帰った頭骨と毛皮を国立科学博物館が、沖縄の西表島固有種のヤマネコと鑑定。42年、特別天然記念物に指定されたが、絶滅が危惧される。

▲山陽特殊製鋼、戦後最大の倒産（3月6日）会社更生法を申請、負債総額は480億円。無理な設備投資が原因で、五輪景気後の「40年不況」の象徴となった。写真は連鎖倒産した下請け企業の工場と従業員。

共同通信社

▶新南極観測船「ふじ」進水（3月18日）美智子妃が支え綱を切り、横浜市の日本鋼管鶴見造船所を離れて東京湾に浮かんだ。「宗谷」に代わる新鋭船で、砕氷・輸送・観測の3つの機能を兼備。11月、3年7ヵ月ぶりの南極に出発した。

◀富士山頂に気象レーダー完成（3月10日）気象レーダーとしては世界最高地点で最大の規模を誇る。観測半径は800キロ、東京からも遠隔操作できる。昭和38年8月に着工、ヘリコプターなどを使う夏季だけの難工事だった。この完成で台風の進路予想など観測態勢が飛躍的に高まった。

朝日新聞社

毎日新聞社

昭和40年3月

- 1（月）●東京・文京区向丘弥生町の住民が町名変更に反対し、取り消し請求の訴訟を起こす。
- 2（火）●神戸市議会で、運輸省が組織暴力団を港湾荷役業者として認定していることが問題化。
- 3（水）●アルプス観光連盟、山小屋料金値上げ決定。
- 4（木）●共産党、宮本顕治書記長宅盗聴で警察を追及。
- 5（金）●第一回自動販売機ショー開催。二〇〇種出品。
- 6（土）●山陽特殊製鋼、倒産。負債総額四八〇億円。
- ●戦後初の中国観光団二一人、羽田を出発。
- 7（日）●米海兵隊、南ベトナム・ダナンに上陸。
- 8（月）●日航、欧州線の週四便など増便を発表。
- 9（火）●最高裁、米軍板付基地の土地返還請求訴訟で所有者に安保条約遵守を要求し上告を棄却。
- 10（水）●富士山頂気象レーダーの完成式挙行。
- 11（木）●東京高裁、帝銀事件の被告・平沢貞通の一〇度目の再審請求を棄却。
- 12（金）●米民間航空局、全日空の鹿児島—奄美—沖縄間の定期航路開設を認可。
- 13（土）●日本育英会、奨学金の悪質未返済者九人に対し、初の強制取り立てを実施と発表。
- 14（日）●作家・戸川幸夫が西表島で発見したヤマネコが新種と鑑定される（イリオモテヤマネコ）。
- 15（月）●中村紘子、ショパン国際コンクールで四位。
- 16（火）●東京地検、都議会議長選汚職事件で家宅捜索、三都議を逮捕（～6月11日一一都議逮捕）。
- 17（水）●トヨタ、「トヨタスポーツ800」を発表。
- 18（木）●犬山市に「明治村」が完成し、開村式挙行。
- ●ソ連「ボスホート二号」宇宙遊泳に成功。
- 19（金）●東海道新幹線の利用客が一〇〇〇万人を突破。
- 20（土）●「東京オリンピック」（監督・市川崑）封切。
- 21（日）●厚生省、サリドマイド児の登録制と治療・訓練の全額国費負担の方針を決定。
- 22（月）●米国防省、ベトナムでの毒ガス使用を認める。
- 23（火）●沼津市の海岸に二〇〇頭のイルカ、全頭捕獲。
- 24（水）●興和製薬、社員への人体実験を告発される。
- 25（木）●官民協調の「体力づくり国民会議」発足。
- 26（金）●洗濯機の普及率六一%、と電気工業会調査。
- 27（土）●住宅公団、動物飼育を原則禁止と規程改正。
- 28（日）●米軍、ベトナムで日本人船員約四〇〇人を雇用し、LST（戦車揚陸艦）で就労中と発表。
- 29（月）●市町村合併特例法施行。施行後一年間は人口が四万人以上になれば市への昇格が可能。
- 30（火）●初の国産旅客機YS11の量産一号機が完成。
- 31（水）●新宿・淀橋浄水場が六六年間の業務を終了。

毎日新聞社

▲押収ピストル、187丁に(4月10日)フランス航空機長・ユルトレルなどの短銃密輸事件を捜査中の警視庁は、さらに40丁を押収、逮捕した暴力団幹部らの自供で、ほぼ全部を摘発と発表。写真は8日公開の押収した密輸短銃。

毎日新聞社

▲活性炭入りスモッグマスク配布(4月)四日市市公害対策課が、公害のひどい市内小学校4校の児童全員に配った。そのうちの1校、塩浜小では1038人の児童のうち、呼吸器疾患を持つものが百余人、喘息患者が10人もいた。

▶ＹＳ11が初就航(4月1日)日本国内航空(現・日本エアシステム)は、東京―徳島―高知線に初の国産旅客機ＹＳ11を投入した。使用機は東京五輪の聖火輸送に使われた試作第2号機で、「聖火号」と名づけられた。

共同通信社

共同通信社

▶川島自民党副総裁、周恩来中国首相と会談(4月19日)ＡＡ会議開催中のジャカルタで日中代表二人が、初めての話し合い。写真は会談を斡旋したインドネシア大統領スカルノ(中)と腕を組む周首相(左)、川島。

昭和40年4月

1(木)●初のシンクタンク、野村総合研究所が発足。
2(金)●乗用車普及は一一軒に一台と『都民生活白書』。
3(土)●四五年の国際博覧会会場は吹田市千里と決定。
4(日)●開発工事から埋蔵文化財を守るため、重要遺跡緊急指定調査研究委員会が発足。
5(月)●黛敏郎、伊映画「聖書」の音楽制作のため出発。
6(火)●中国、日立造船との貨物船輸入契約を破棄。輸銀資金の使用を認めない日本政府に反発。
●八王子市で中央自動車道の起工式を挙行(22日清水市で東名自動車道起工式)。
7(水)●鉄建公団、武蔵野線など一九線の着工を決定。
8(木)●警視庁、上野・東京駅に家出人相談所を開設。
9(金)●米海軍、ＬＳＴの日本人乗員の募集を発表。
10(土)●国土地理院、六〇年前の測量時に比べ日本列島の湾曲が進行していると発表。
11(日)●身障者団体連絡協の第一回国際身障者デー。
12(月)●東鉄局、通勤時の「尻押し部隊」を三倍増に。
13(火)●海外旅行ふえ旅行収支大幅赤字と『観光白書』。
14(水)●コインを入れ全自動で洗濯する「セルフサービス・クリーニング店」が人気と新聞に。
15(木)●検察庁、公開の交通一斉取締りを実施。全国の検挙数は三万六二九〇件。
16(金)●東京地検、都議会議長選汚職で小山議長逮捕。
17(土)●丹後半島で韓国からの密入国者二九人を逮捕。
18(日)●高倉健主演「網走番外地」封切。
19(月)●日本眼球銀行(アイバンク)協会設立。
●ボストンマラソンで重松森雄が大会新で優勝。日本人選手が三位までを独占。
20(火)●ＷＨＯの協力組織「日本ＷＨＯ協会」発会。
21(水)●衆院、ＩＬＯ八七号条約の批准を承認。
22(木)●プロ野球で新人採用にドラフト制導入と決定。
23(金)●東京地検、三菱銀行からの告訴を受け、吹原弘宣を逮捕(吹原産業不正融資事件)。
24(土)●小田実らの「ベトナムに平和を!市民・文化団体連合(ベ平連)」が初の集会とデモを行う。
25(日)●慶大三年の深津尚子、世界卓球選手権で優勝。
26(月)●都内二五八〇軒の公衆浴場が料金値上げ要求し一斉休業(27日中止。6月4日再びスト)。
27(火)●東京で個人タクシー免許大幅認可求め大会。
28(水)●南ベトナムで工事調査中の日本人四人が解放戦線に連行され行方不明(5月21日釈放)。
29(木)●「ひかり一七号」の運転台から出火、緊急停止。
30(金)●総理府、四月の消費者物価指数は一一・八%増で一一年ぶりの上昇率と発表。

証言・あの日この日
田久保英夫(47)

2月20日(土)〈山川が死んだ。僕はこの事実を、これが自分にあたえた心の衝撃を、どうやって形づけていいかまったくわからない。(中略)作家として位置を確立し、旺盛な活動期から、さらに生涯のもっとも充実した結実期へ入ろうとしていた。その彼を、彼の未来を、ブレーキの甘い、無謀な超過搭載トラックが砕き去った〉(田久保英夫「山川方夫の急逝」)

いまだ根強い読者を持つ作家・山川方夫は、神奈川県二宮駅前の歩道でトラックにはねられ急逝する。交通戦争という言葉が社会問題化し、運輸省は1964年、初の事故白書である『交通事故の現状』を発表。交通事故による死者は1965年、史上最悪の1万3904人を記録。その原因のひとつに、高度成長の影の部分である「無謀な超過搭載トラック」の存在があった。(坪内祐三)

朝日新聞社

▲「東洋の魔女」花嫁に(5月31日)バレーボール日紡貝塚の元主将・河西昌枝さん(31)が、佐藤首相の肝いりで自衛隊二尉・中村和夫氏(33)と結婚。披露宴には「鬼の大松」こと大松博文氏や元「魔女」たちが顔をそろえた。

▶ふえる「カギっ子」(5月)働く母親の増加で、家のカギを持ち歩く子どもが珍しくなくなった。朝日新聞が1月に各支局で調査したところ、全校生の3~4割にも達する小、中学校もあるという。写真は大阪の豊中市内で見かけた光景。

朝日新聞社

▼「死のしごき事件」(5月15日)東京農大ワンゲル部員が奥秩父で新入生に暴行、一人を死亡させ、監督ほか8人が傷害致死容疑で逮捕された。写真は26日の学園慰霊祭。学生ら4000人が参列した。

PPS

Sports Illustrated/PPS

▲カシアス・クレイ、あっさりタイトル初防衛(5月25日)プロボクシング世界ヘビー級前チャンピオンのソニー・リストンが挑んだが、それまでのヘビー級史上最短の1回1分、右ショートストレートでＫＯ。クレイは無敗の21連勝。

読売新聞社

▶タンカーが室蘭港岸壁に激突、炎上(5月23日)ノルウェーの「ハイムバルト号」で、接岸に失敗。流れ出した原油に火がつき、火柱を上げて爆発、14人が死傷した。化学消火剤が役に立たなかったため、船は28日間燃え続けた。

昭和40年5月

1(土)●郡山市、隣接五町五村を合併。新産業都市建設法に基づく初の基幹都市に。
2(日)●米、ドミニカの共産化阻止に派兵増員と発表。
3(月)●カンボジア、米との国交を断絶。
4(火)●貴金属商専門の車上荒らしで、一億五〇〇〇万円を盗んでいた一五人を警視庁などが逮捕。
5(水)●横浜市に国立「こどもの国」が開園。
6(木)●社会党の新委員長に佐々木更三が選出される。
7(金)●首相、異常低温で冷害対策本部設置を指示。
8(土)●警視庁、暴力団の株主総会妨害など、経済事犯に対処する知能暴力犯罪捜査班を新設。
9(日)●日本テレビ「ベトナム海兵大隊戦記」放映(「残虐シーン」が問題化し第二部以降は中止)。
10(月)●鹿児島市の体育館で西郷輝彦ショーに観客一万余人が殺到、整理の警官一人死亡。
11(火)●日赤血液センター、出張採血を開始。
12(水)●ニホンカワウソ、特別天然記念物に指定。
13(木)●日銀、不正融資防止で銀行検査の強化を決定。
14(金)●中国、西部地区上空で二回目の核実験。
15(土)●世界平和アピール七人委員会、京都で開催。
16(日)●日本リュウマチ友の会が患者大会を開き、結核並みの対策を求め厚生省に陳情。
17(月)●ＩＬＯ八七号条約承認と関係国内法成立。
●完全失業者は戦後最低の三六万人と総理府。
18(火)●東京農大ワンゲル部で、「死のしごき事件」。
19(水)●モスクワで日本歌劇団の初公演開幕。
20(木)●都留文大自治会、市の大学自治介入に抗議しデモ(9月8日~10月22日スト実施)。
21(金)●三菱など関係銀行が累積赤字一〇〇億円で経営危機の山一証券再建計画を発表。
22(土)●防衛庁、全国的な冷害で援農実施を決め、田植えのため第一陣三〇人を茨城県に派遣。
23(日)●東京・渋谷の教会でベトナムに平和を求めるキリスト者緊急会議が発会式。
24(月)●都議会野党四党、統一リコール運動を決定。
25(火)●米原潜「スヌック」、佐世保に入港。
26(水)●ソ連、抑留日本人漁船員全員の釈放を通告。
27(木)●秋田県八郎潟に新村を建設する事業団法公布。
28(金)●大蔵省の権限を強化した証取法改正公布。
29(土)●日銀、山一証券に無制限・無期限の特別融資を発動。三一年以来の異例の措置。
30(日)●日本ダービーでキーストンが優勝。入場者八万人、売り上げ一〇億円で過去最高を記録。
31(月)●日産自動車とプリンス自動車、合併覚書調印。

毎日新聞社

▲福岡県山野鉱業の炭鉱で爆発事故（6月1日） 552人が働く地下490メートルの坑道にガスが充満し、237人が死亡、279人が重軽傷を負い、昭和38年の三池鉱爆発に次ぐ戦後2番目の惨事となった。

▶夢の島ハエ騒動（6月29日） 1日6500トンずつ8年間堆積したゴミから大量のハエが発生、江東区一帯に大群をもたらした。この日、江東区と東京都は撲滅対策本部を設け、薬剤散布。さらに7月16日、重油を撒いて火を放つ焦土作戦を実施した。

朝日新聞社

▲田中証券、倒産（6月7日）大蔵省が証券業者の登録を抹消。警視庁も預かった株券8000万円を担保にしたと業務上横領容疑で捜索した。写真は23日、会社前で「株券を返せ」と訴える被害者同盟。

毎日新聞社

▼「ベ平連」平和行進（6月24日）米軍の北爆を機に4月、作家の小田実らを中心に結成。米軍のハノイ爆撃に抗議して、東京・清水谷公園で集会を開き、アメリカ大使館から新橋まで行進した。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲「アイビー族」出没（6月6日）警視庁少年一課などが初めて一斉に補導。彼らは前年4月創刊の「平凡パンチ」信奉者。短めのパンツにボタンダウンのシャツといった先進のスタイルで、銀座の裏通りにたむろした。

村井実

▶武智鉄二監督の日活映画「黒い雪」に猥褻容疑（6月16日）映倫をパス、9日に成人向け映画として公開されたが、警視庁が製作会社などを捜索、ノーカット版を押収。公判では少女が裸で基地周辺を走るシーンが争点となった。

昭和40年6月

1（火）●福岡県の山野鉱でガス爆発、二三七人死亡。

2（水）●厚生省、保険での入院を拒否し、患者が死亡した岩手医大付属病院を戒告処分。

3（木）●米の「ジェミニ四号」二〇分間の宇宙遊泳。

4（金）●武満徹「管弦楽のためのテクスチュアズ」、パリの国際現代作曲会議で最優秀作品に決定。

5（土）●早大で「就職闘争」めざす女子学生の会結成。

6（日）●発足した日本サッカーリーグ開幕。実業団八チーム参加、東京では日立と名相銀が対戦。

7（月）●ニューヨークで日本映画を紹介してきた東宝シネマ劇場、経営不振のため閉館。

8（火）●東京・銀座の雑居ビル二階に釣り堀開業。

9（水）●社共と市民団体がベトナム反戦で初の共闘。

10（木）●青年海外協力隊の母体、協力隊協議会が発足。

11（金）●沖縄の読谷村で、小学生が自宅の庭に米軍機が誤投下したトレーラーの下敷きで死亡。

12（土）●阿賀野川流域で水俣病に似た患者が死亡と新潟大の植木幸明教授らが公表（新潟水俣病）。
●家永三郎、教科書検定は違憲と国を提訴。

13（日）●中国が日本漁船の民間漁業協定による「華東ライン」侵犯に抗議、と新聞に。

14（月）●東京都議会、全会一致で解散を可決。

15（火）●警視庁、相撲界ピストル不法所持事件で九重親方（元千代の山）、大鵬、柏戸らを書類送検。

16（水）●警視庁、猥褻容疑で武智プロを捜索し、武智鉄二監督「黒い雪」のフィルムを押収。

17（木）●大蔵省、山陽特殊製鋼を証取法違反で告発。

18（金）●調布市、水難対策で多摩川の遊泳を全面禁止。

19（土）●松竹、労組に六月分給料の分割払い申し入れ。

20（日）●「ハンセン病を正しく理解する運動」が始まる。

21（月）●放送番組向上委、視聴者参加「低俗番組」への中学生以下の出演禁止などを各局に要望。

22（火）●日韓基本条約、調印。両国で反対デモ多発。

23（水）●政府、景気刺激で一〇〇〇億円繰り上げ支出。

24（木）●生保五社、株式を日本共同証券に預託と決定。

25（金）●総務庁、公務員の勤務時間内デモ禁止を通達。

26（土）●映画「サウンド・オブ・ミュージック」封切。

27（日）●室戸市の漁船がインドネシアで拿捕される。

28（月）●三沢市の米軍射爆場で塩素ガス噴出事故。

29（火）●東京・夢の島でハエが異常発生したため、都が駆除作業を開始（11月にはネズミ駆除）。
●阪神地方の各海水浴場、神戸市の須磨海水浴場をのぞき汚染のため閉鎖される。

30（水）●公取委、カメラ一一社に不況カルテルを認可。

▲ピアノ以前のハープシコード（17世紀）、ここで聞けるのはバッハの曲。 平野美津子

20世紀博物館

浜松市楽器博物館

静岡・浜松市

六〇〇点もの楽器ひとつひとつが語りかけるにぎやかさ

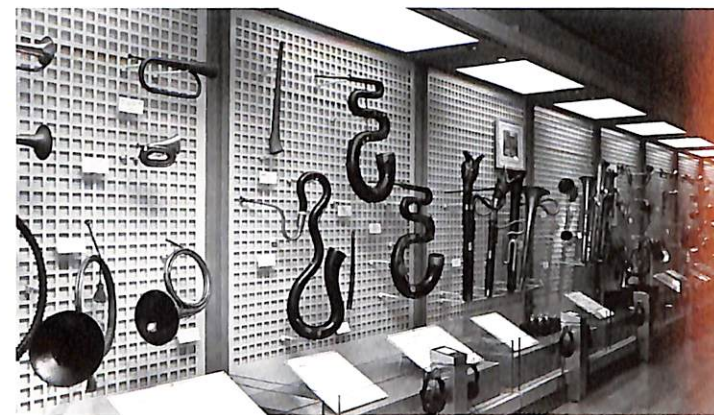
桑原茂夫

にぎやかな博物館である。ひとつひとつの楽器が、それ弾いてくれ、やれ吹いてくれといわんばかりの風情を示しているからだ。楽器ってこんなにも個性的で、しかも雄弁だったのだろうかと、驚かされてしまうほどだ。

そんなにぎやかさをもたらしている最大の要因は、どの楽器も博物館特有のガラスケースにおさめられているのではなく、手に取れるような位置に並べられているところにあると見た。

中世から前世紀にかけてよく演奏されたシターン（イングリッシュ・ギター）や、ヨーロッパ最古の弓を使う楽器のひとつトランペット・マリーン、ヨーロッパ中世の大道芸人たちが愛用し、教会や上流社会から〝悪魔の楽器〟とか〝乞食の楽器〟とさげすまれたというハーディ・ガーディ、金属製の弦を小さなハンマーで叩くダルシマー等々、歴史的に貴重な楽器類も、乙にすますのではなく、今すぐにでも奏でられるのを待っている風情で、むき出しのまま展示されている。

▲1930年代のアコーディオンなどがある、初期国産洋楽器のコーナー。

ガラス一枚でこんなにも違うものかと思うほど、それぞれの楽器がリアルなのである。目に見えない傷や磨耗、汚れなどを通して、実際に人が使っていたというそのことが自然に伝わってきて、独特の雰囲気（色気と言ってもいいのだ！）を生み出しているのだろう。

▲中央のヘビのような形をした低音ホルンは、「セルバン」という楽器。

もうひとつ、この博物館の大きな特徴として、代表的な楽器の音を、実際に演奏される曲で、ヘッドホンを通して聞かせてくれるということがある。

右にあげた楽器も実はその類で、例の〝悪魔の楽器〟と言われたハーディ・ガーディなんかは、なるほど猥雑な感じがして、その音にあおられて踊ったり曲芸をしたりしている光景が目に浮かび、思わず体を揺り動かしてしまうのだった。

「もっとにぎやかにしたい」

学芸員の小木香さんは、学芸員歴二〇年というベテランだが「こんな面白い博物館は初めて」だという。小木さん自身大声で大いにしゃべるにぎやかな男性なのだが、訪れる人たちが楽器とともににぎやかな気分になっていくのが楽しくてしようがないようだ。

ところで今展示されているのは、全部で六〇〇点余り。二〇〇〇年にはこれを二〇〇〇点にしたいそうだ。しかも今のところ洋楽器中心だが、これからはアジア、アフリカ、オセアニアの楽器もどんどん収集・展示していくという。すでにインドネシアのガムランやジュコックなど、代表的なものを展示するコーナーがあり、演奏風景のビデオとともに見ることができる。

さらににぎやかな博物館になることは間違いないが、どんな楽器がどんな色気で迫ってくるか楽しみである。

▲フロアが二つあるが、このフロアには弦楽器や鍵盤楽器が集中している。

●浜松市楽器博物館
静岡県浜松市板屋町一〇八—一 アクトシティ浜松内 ☎〇五三—四五一—一一二八
JR浜松駅から徒歩四分
開館時間＝九時三〇分〜一七時
休館日＝月曜日、祝日の翌日、年末・年始

ベストセラー

管理社会の〝ノウハウ〟本『おれについてこい!』

この年のベストセラー上位を占めた本の著者である大松博文が、東京オリンピックで金メダルを取った女子バレーボールチームの名監督であったことは言うまでもない。書名にもなった「おれについてこい!」は、世界一になるまでの猛練習と、その背景のすべてをひとことで表した名文句で、一世を風靡したものである。この本は、優勝シーンの感動をもう一度というよりも、管理社会のノウハウ本として読まれたようだ。

地味と言われた岩波新書からベストテン入りした、岡村昭彦の『南ヴェトナム戦争従軍記』は、当時泥沼化していたベトナム戦争や、日韓会談で揺れていた韓国の様子を、いわば〝アジア人〟の側からリアルタイムで描き出した貴重なドキュメントであり、鋭い告発の書だった。それはまた、時代の最先端をゆくジャーナリストのあり方を、根底から問う書物でもあり、現在にもそのまま通じる新鮮さを持っている。みずからの命を削る覚悟で、戦争の実態をストレートに世界に伝え続けようとした、今は亡き本物のジャーナリスト（カメラマン）が残した、本物の記録である。

同じ年に山崎豊子の『白い巨塔』が刊行されているのも、時代の雰囲気を感じさせる。大学医学部の教授選挙の実態などを通して、医療が、仁術から金と権力にまみれた世界へと堕ちてゆく様子を、ありありと描いたこの作品は、翌年には山本薩夫監督の手で映画化され、さらに話題を呼んだ。

これらの本は、アングルや展開の仕方こそ違え、経済成長の背後で何が起こりつつあるのかを、具体的に示したと言うこともできる。

●昭和40年のベストセラー

順位	書名・著者・出版社
1位	『人間革命(1)』(池田大作／聖教新聞社)
2位	『なせばなる』(大松博文／講談社)
3位	『おれについてこい!』(大松博文／講談社)
4位	『徳川家康』(全23巻／山岡荘八／講談社)
5位	『わが愛を星に祈りて』(佐伯浩子／大和書房)
6位	『三分間スピーチ』(諸星龍／光文社)
7位	『妻の日の愛のかたみに』(池上三重子／サンケイ新聞社)
8位	『南ヴェトナム戦争従軍記』(岡村昭彦／岩波書店)
9位	『白い巨塔』(山崎豊子／新潮社)
10位	『氷点』(三浦綾子／朝日新聞社)

全国出版協会出版科学研究所

▲「おれについてこい!」(250円)

▲「南ヴェトナム戦争従軍記」(150円)

▲『白い巨塔』(570円)

スターと名場面

「網走番外地」や「函館の女」映画に歌に〝北国モノ〟ヒット

高倉健が、人気スターの地位を固めたのは「網走番外地」シリーズだったが、その第一作がこの年封切られている。網走番外地とは、北海道・網走刑務所の別称だが、石井輝男監督の切れ味鋭い演出は、この刑務所を生き生きと、コミカルタッチで描き出し、新しいタイプのヤクザ映画を誕生させた。この映画の主題歌は、もの哀しいメロディーと高倉健のやぶっきらぼうな歌い方で人気を呼んだが、実際に刑務所で歌われていた歌だったためか放送禁止となった。しかし歌詞は違うがレコードは発売され、こちらからも、〝健さん〟の人気は高まった。

同じ年に、内田吐夢監督の「飢餓海峡」が公開された。極貧の家に生まれた男（三國連太郎）が、台風下に起こった大火と大海難事件のどさくさに大金をつかみ、身を立てることに成功したものの、結局は身を滅ぼすことになる。その物語をタテ糸に、命からがら逃げおおせたつもりの男と、男を恩人と仰ぐ売春婦（左幸子）との愛憎をヨコ糸に織りなされた人間ドラマで、二時間半を超える大作となった。

映画の注目作が、ともに北海道や東北の寒い地域を主要な舞台にしているのは偶然だろうが、流行歌の方でも、北島三郎がみずからの望郷の思いを重ねて歌った「函館の女」が大ヒットした。

なお、この年話題になった映画に次のような作品がある。かっこ内はおもな出演者。「兵隊やくざ」（勝新太郎）／「東京オリンピック」／「黒い雪」（内田高子）／「ブワナ・トシの歌」（渥美清）／「昭和残侠伝」（高倉健）。

東映提供

▲「網走番外地」はモノクロで、第二作以降はカラーだった（中央・高倉健、左・田中邦衛）。

東映提供

▶「飢餓海峡」のラストシーン。津軽海峡を渡る連絡船の上で、刑事役の伴淳三郎（右）と主役の三國連太郎（左から二人目）。

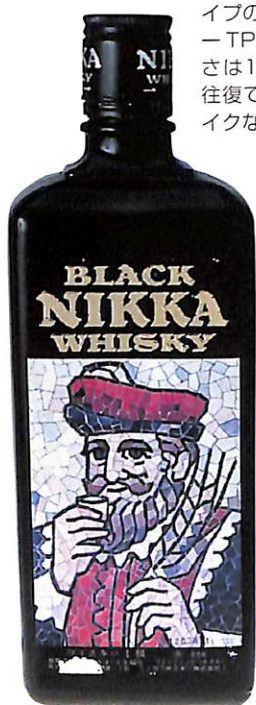
東宝提供

▲医は仁術を描いた黒澤明監督の「赤ひげ」も、この年の作品（右・三船敏郎、左・加山雄三）。

モノ語り'65

健康に「オロナミンC」、そして夜は国産ウイスキーモーレツ社員のための〝活力源〟

▲**いよいよカセットテープレコーダー** 前年、日本初のカセットテープレコーダーを発売したアイワが、4月に発売したのが、世界標準規格タイプの「カートリッジテープレコーダーTP-707P」。カートリッジの大きさは10センチとコンパクトになり、往復で1時間の録音が可能だった。マイクなどがついて2万800円。

◀**自分で映画が撮れるようになった** プライベートな映画を楽しむための、シンプルな8ミリ撮影システム「シングル-8」シリーズが、富士写真フイルムから発売された。撮影時のフィルム装填に新しいマガジン方式を採用、「マガジン、ポン! 私にも写せます」のCMで、特に主婦向けに使いやすさを強調、ホームムービー時代の幕開けに大いに貢献した。撮影機(写真)1万6500円、映写機1万6500円、フィルム1350円と、価格も手頃だった。

◀**いよいよ国産本格ウイスキー登場** 本場イギリスのスコッチウイスキーと同じように、初めてグレーン原酒とモルト原酒をブレンドしたウイスキー「ブラックニッカ」がニッカウヰスキーから発売された。アルコール度数は42度で、一級酒と銘打たれたが、ほとんど特級と言える品質で、しかも720ミリリットル1000円。サントリーもこれを追いかけたため〝1000円戦争〟と言われたが、消費者にはありがたいウイスキー戦争だった。

▶**革靴が丈夫ではきやすくなった** アメリカのウルバリン社で開発された「ハッシュパピー」が、9月14日、大塚製靴(現・パピーシューズ)から発売された。通気性にとんだ、キング・オブ・レザーと呼ばれるピッグスキンをフッ素樹脂でなめし、水や汚れに強くしたり、弾力性を持たせるなど丈夫ではきやすく、お手入れ簡単、が売りだった。2700〜3800円。

▼**冷蔵庫で冷やした簡易氷枕** 家庭に急速に普及してきた電気冷蔵庫の関連商品として、すでに売り出されていた脱臭剤「ノンスメル」に続く第2弾が、鎌田商会(現・白元。写真は白元に改称直後のもの)の開発した「アイスノン」(300円)。冷蔵庫で冷やす氷枕である。「寝苦しい夜を快適に」のCMコピーで健康イメージを打ち出し、パッケージも明るい黄色にしたところ、この年の夏が猛暑だったこともあって、大ヒットした。

▲**画期的な新素材の台所用品** こげつかないフライパンとして今ではすっかり定番商品となっている「テフロン加工フライパン」は、この年富士アルミニウム工業(現・フジマル工業)から発売された。油いらずで調理ができ、しかも使用後の手入れが簡単という便利さが人気を呼んだ。4種類あり、一番大きい直径24センチのもので1700円だった。

▶**健康ドリンクのロングセラー登場** すでに市場に出ていた滋養強壮剤ではなく、飲みやすくおいしい〝健康ドリンク〟として登場したのが、大塚製薬の「オロナミンC」(120ミリリットル入り100円)だった。ビタミンC、B_2、B_6、各種アミノ酸などを含み、ビタミンCを太陽光線から守るために、褐色のボトルに入っていた。

人物クローズアップ

小田 実（三三）

ユーモアと開き直りで状況打破 全国に一四〇の「べ平連」誕生！

▼小田が編集・発行人となった「週刊アンポ」創刊号。表紙は横尾忠則。 共同通信社

昭和四〇年四月二四日、東京の清水谷公園は、五〇〇人以上の〝市民〟でごった返していた。「米国は北爆を中止せよ、日本の米国への追随反対」と書かれたプラカードや風船、花束を手にした主婦、学生が新橋までの道を行進したのである。これが、九年間にわたって日本の反ベトナム戦争運動をリードする「ベトナムに平和を！　市民・文化団体連合」（べ平連）第一回のデモだった。

その場で、見物人に参加を呼びかける大柄な男こそ、『何でも見てやろう』（三六年）で人気作家の座についた小田実（三二）である。そのほか、鶴見俊輔（四二）や開高健（三四）、小中陽太郎（三〇）らの著名人も参加。彼らの知名度とユニークな運動論とがあいまって、べ平連は一大ブームを巻き起こすことになる。

元埼玉べ平連代表の評論家・小沢遼子は、「当時の大衆運動といえば、政党の支配下にあり、〝票集めの道具〟にされるのが常識でした。それを小田さんは、『米国はベトナムから手を引け』といった原則に賛成すれば、誰でもべ平連を名乗れる斬新な運動を提案した」と振り返る。

べ平連は、定例デモのほかにも、米国人脱走兵や米軍基地内での反戦運動の支援などさまざまな活動を展開。ピークを迎えた四二年から四四年頃には、全国に一四〇ものべ平連が誕生した。

「必要な行動方針を打ち出し、猛烈なエネルギーで飛びまわる小田氏の行動力が、運動に与えた影響は大きかった。たとえば、私が警察に捕まった時も、激昂する何万人ものデモ隊に『しゃあない。笑おうじゃないか』と言って場をおさめてしまう。ユーモアと開き直りで深刻な状況を打破する手法に、多くの参加者が引きつけられた」と元事務局長の吉川勇一は話す。

しかし、一方で、運動の拡大がべ平連内部に微妙な影を落としてゆく。治安当局の弾圧、戦闘的な全共闘スタイルの流入などが、多様性を尊重していたはずのべ平連で亀裂を誘発していったからだ。

「外から〝べ平連は生ぬるい〟と批判されているうちはよかったんです。小田さんが、内部からも社会変革をめざす運動への脱皮を突きつけられ、悩み、苛立っていたのは誰の目にも明らかでした」（ノンフィクション作家・吉岡忍）

結局、運動が急速に萎んでいく中、海外旅行中の小田代表をよそに、四八年一月のベトナム和平協定を受け、べ平連は翌年一月二六日、活動に終止符を打つ。

三三年たった現在、べ平連が戦争終結にどれだけの役割を担ったかを議論することに意味があるとは思えない。むしろ、小田実という思想家が、べ平連を通して残した〝宿題〟を見直すことに大きな価値があるはずである。それこそ、部落差別や公害、薬害などの市民運動に引き継がれていった彼の市民運動思想であり、個人の原理に基づいて行動する〝市民のあり方そのもの〟だからだ。

「僕らは、小田実が率いた民主主義の〝学校〟で、おのれの考えにそって行動を選び取る自立した個人の生き方を学んでいたのです」――吉岡の言葉が今も新鮮に響くのは、私たちが直面している諸々の問題とは無関係ではないからだろう。

◀四四年四月、米軍脱走兵の支援組織「ベトナム第二戦線インター」結成の記者会見。左から小田、小中、吉川のべ平連メンバー。 共同通信社

▲40年4月24日、小田実(中央)らの呼びかけで東京・清水谷公園で開かれた初めての集会。マイクを手にするのは作家の開高健。この後、新橋までデモ行進した。 共同通信社

決定的瞬間

漫画家・手塚治虫氏も仰天！米ソの飛行士が相次いで人類初の宇宙遊泳に成功

「宇宙空間の美しさは口では言い表せない。私の目の前には、地球が威容をたたえて浮かんでいた。ちっとも怖くはなかったが、宇宙が無限に広く深いと、身をもって感じた」（レオーノフ中佐）

ソ連が人類初の宇宙遊泳を実現させたとのニュースは、いきなり飛びこんできた。三月一八日午後四時（モスクワ時間同日午前一〇時）に打ち上げられた二人乗り宇宙船「ボスホート二号」の乗員アレクセイ・レオーノフ中佐（三〇）が、打ち上げから一時間半後、ハッチを開け宇宙船の外に出て、最大五㍍離れて一〇分間の船外活動に成功したのだ。その模様はテレビ中継され、レオーノフ中佐が「潜水夫さながら」に暗黒の宇宙を泳ぐ姿に、人々は興奮した。

漫画家の手塚治虫氏（三六）も、「二〇年ほど前、宇宙服を着て宇宙を飛びまわる漫画を初めて登場させた時、世間からは非科学的な物語だと、ずいぶんバカにされたものです。しかし、私は、いつかはそんな時代が来ると信じていました。でも、こんなに早くこようとは……感無量です」（『朝日新聞』三月一九日）と、驚きを隠さなかった。

「人類初」では先を越されたが、米国もすぐさま後を追った。わずか二ヵ月半後の六月三日、二人乗りの「ジェミニ四号」を打ち上げ、エドワード・H・ホワイト少佐（三四）が二〇分間の宇宙遊泳に成功したのだ。テレビ中継はなかったものの、ホワイト少佐と宇宙船内のマクディビット少佐との会話や管制センターとのやりとりが、テレビとラジオで流された。「船内に戻れ」「気分は快調だ」「いや、戻って来い」「（笑いながら）戻らないよ」「あと三日も飛行するんだぞ」「（しぶしぶ）戻るよ」……。

ホワイト少佐が会話に夢中になって時間を忘れ、一二分の予定だった宇宙遊泳の時間は八分も延びた。遊泳には七・五㍍の命綱を使ったが、窒素（ちっそ）ガスを噴射しその反動で移動する「宇宙銃」も使われ、「初の試み」と話題を呼んだ。

この頃、宇宙開発競争において米国はソ連よりもはるかに劣勢だった。米国の有人衛星の飛行累積時間は、「ジェミニ四号」打ち上げの時点で五八時間五一分。ソ連は四三二時間四一分にも達し、米国の宇宙遊泳も年内は無理、というのがおおかたの観測だったのだ。

しかし元国立天文台長の古在由秀（こざいよしひで）氏は、「イチかバチかでなく、ちゃんとステップは踏んでいたと思う。私は六〇年代の初め頃アメリカにいたのですが、困難な課題をひとつずつクリアしてゆく姿勢を見て、これは本当に月まで行くんじゃないかと思っていましたね」と語る。

あれから三二年。一九九七年一〇月には、日本人宇宙飛行士として初めて、土井隆雄（どいたかお）さんが宇宙遊泳に挑戦する。

▲レオーノフ中佐は、強い陽光をあびながらゆっくり上下左右に回転し続けた。　タス／共同通信社

▲ホワイト少佐の宇宙服は、アルミ貼りのプラスチック膜、フェルトで補強されていた。体はナイロン綱で宇宙船に結びつけられ、綱の中のホースを通じて絶えず酸素が宇宙服内に送りこまれている。　NASA　PPS

美の出会い

明治人の〝魂〟を伝えたい 森鷗外、夏目漱石宅など「明治村」がオープン！

昭和四〇年三月一八日、愛知県犬山市大字内山の山林に、博物館明治村が開村した。初代館長には、建築家の谷口吉郎（六〇）が就任。谷口が鹿鳴館の取り壊しを惜しんでから、実に二五年の歳月が流れていた。

昭和一五年のこと、東京の日比谷を通りかかった谷口は、帝国ホテルの隣にあった鹿鳴館の取り壊し作業に偶然出会い、大きなショックを受けた。鹿鳴館は、帝室博物館、ニコライ堂、三菱一号館などとともに、明治を代表する数々の建築物を手がけてきたイギリスの建築家コンドルの設計によるものである。

明治政府が欧化政策の一環として建てた鹿鳴館には、洋装した貴婦人や紳士が集い、そのありさまは浮世絵や小説に登場し、広く知れわたるとともに、歴史の舞台としても重要な役割をはたしてきた。

谷口がショックを受けてまもなく、日本は太平洋戦争に突入、都市の大半は破壊された。戦火をまぬがれた明治建築も、昭和三〇年代に入ると、高度成長のもとで、全国的な都市再開発が進められ、またたくまに取り壊されていった。

昭和三六年頃、谷口吉郎は旧制第四高等学校の同窓生だった友人の名古屋鉄道副社長・土川元夫に相談した。

「失われていく明治建築を救うことができないものだろうか」

土川は早速、名鉄の役員会議にかけ、犬山市にある一五万坪（約四九万五〇〇〇平方メートル）の土地を提供することを決定、三七年には財団を設立した。こうして四〇年、博物館明治村が開村したのである。明治村は交通が不便で、誰がこんなところまで見学に来るだろうかと思えるような辺鄙な場所に開かれた。しかし、立地条件として建築物を保存できる広い面積と、災害を避けることのできる安全な場所をあげていた谷口にとって、ここは願ってもない土地だった。

開村当時は、最初に移築された札幌の中央郵便局をはじめ、西郷従道邸、森鷗外と夏目漱石の二人の文豪が住んだ文京区千駄木の住宅、品川第二台場の灯台など一五の建築物があった。いずれも、取り壊しが決まっていた建物を、移築・復元させたのである。

しかし、この移築・復元作業は、新築するよりも、はるかに手間のかかる仕事だった。移築が決まった建物は、すぐさま実測にとりかかり、細心の注意をはらって解体し輸送する。さらに資料調査や学究的な考察を経て、復元のための設計図を作成し、これをもとに工事が進められたのだった。

そして、この工事と輸送には莫大な資金が必要だったが、これも土川の配慮で、名鉄の援助をあおぐことができた。谷口が記しているように「土川がいなかったら実現できなかった」ことである。

「平成八年現在、明治村に移築された建物は六七件。明治村への入場者は三八〇〇万人を超えました。明治一〇〇年を契機に、多くの人が来場するようになり、今も年間一〇〇万人を超しています」

明治村学芸員の遠藤照子さんが解説してくれるように、延べ人数で考えると、日本人の三～四人に一人は訪れていることになる。日本各地の美術館がここを目標にしている理由がわかった。

しかし明治村は、たんに明治の建築や遺物を集めただけの場所ではなく、また遊び中心のテーマパークなどとも違う。

「家というものには、どの家にも、建てた人、そこに住んだ人の心がこもる。その姿には時代の精神が現れる。それ故明治村に移された建築にも、明治の魂がひそんでいるはずである」

谷口は開村当初に刊行された「明治村通信1」に記している。

明治村は近代日本の原点である明治の文化を再発見できる場であり、さらにその英知と精神を、現在および未来に伝えていく場でもある。

▲東山梨郡役所（明治18年建設）。山梨県令・藤村紫朗が、地元の職人を使って建てさせた和洋折衷建築の代表的作品。各所に優れた伝統技術が見られる。

◀大阪府池田市にあった呉服座（明治初年建設）。江戸時代の面影を残す芝居小屋で、幸徳秋水や尾崎行雄の演説会場にもなった。移築後も、歌舞伎などが上演されている。

▶東京都文京区千駄木の住宅（明治二〇年頃建設）。明治二三年に森鷗外が借り、『文づかひ』を執筆。一年余りすごした。明治三六～三九年には、夏目漱石が住み、『吾輩は猫である』を執筆した。

博物館明治村提供（3点とも）

非常戒厳令下のソウルで2万5000人デモ
反対運動激化の中で「日韓条約」調印！

◀8月4日、ソウルの高麗大学に突入した軍隊に連行される学生。20日には学生デモが活発化したため、23日にデモ鎮圧のため再び軍隊が出動。
桑原史成

昭和三六年、朴正煕政権下で第六次の日韓会談が始まって以来、韓国国内では国民的な抵抗が続いていたが、日韓条約の調印前後に反対運動はピークを迎え、全土が騒然。各都市で無数の反対声明が出されてデモが繰り広げられ、ソウル市街は連日のように催涙ガスに包まれた。

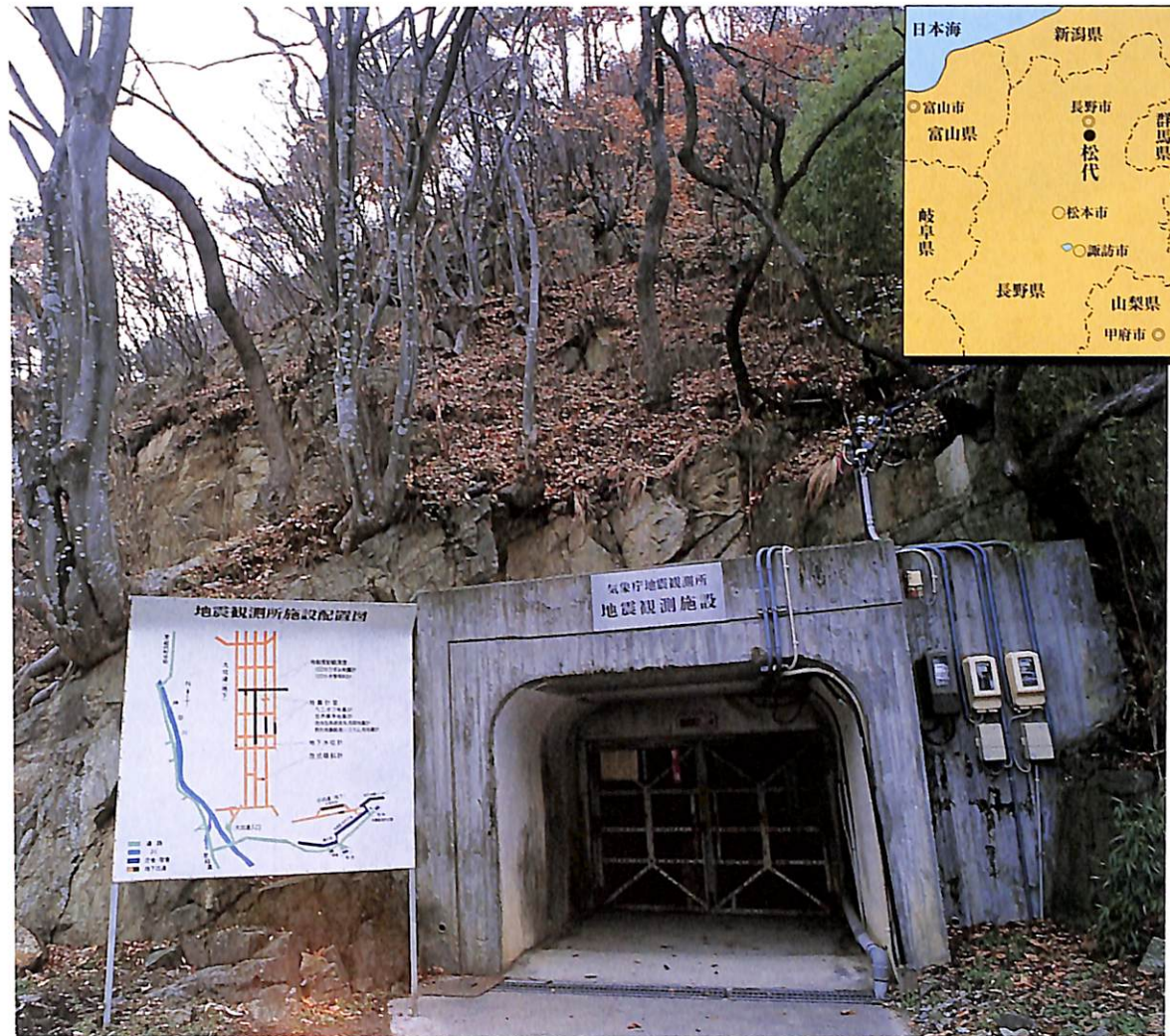
条約調印、批准をめぐり反日感情が噴き出した

『検証・日韓会談』（岩波新書）の著者・高崎宗司津田塾大教授が、調印前後の韓国国内の様子をこう振り返る。

「昭和四〇年四月三日に、対日請求権、漁業、在日韓国人の法的地位に関する協定の、いわゆる三懸案が日韓両国で仮調印された後、ソウル大のデモを皮切りに、仮調印無効化、李ライン死守を要求して連日デモが続いていました。そんな中で、東国大の学生が警官に撲殺されたんです。すると、その翌日にはこれに抗

「現場」を歩く 松代

二六年間続いた「群発地震」と地下大本営跡

山本徹美

▲現在は開かずの扉だが、この奥に世界標準地震計、歪地震計が設置されたとたんに群発地震が始まった。 但馬一憲

昭和四〇年八月三日、長野県埴科郡松代町（現・長野市）で、地鳴りをともなう地震が三回発生。それが「松代群発地震」のいわば号砲だった。

微弱地震は間断なく続き、一〇月九日、気象庁は異例の地震警報を発令。地震は日を追って活発化、四年間で震度五が九回、震度四はなんと五〇回。とりあえず終息した平成三年の時点で、地震総数は実に七三万二〇八九回、有感六万三三二〇回を記録したのである。

平成九年一月、松代を訪ねてみた。真田一〇万石の城下町とあって、史跡や寺院が多く、土壁の家屋も残っている。が、歩いてみたかぎりでは地震の痕跡は見当たらなかった。何人かに話を聞いたが、

「最初はおどけた（驚いた）が、あまりに続くので慣れっこになった」

というのが、共通の感想だ。地震による負傷者は一五人で、死者はなし。火災もゼロ。住宅の全壊が一〇棟、一部破損七八五七棟と報告されている。長野市役所松代支所の吉池正行総務課長が言う。

「群発地震の時は、深夜であろうと揺れるたびに消防署に集合、被害状況を報告し合った。屋根瓦の『ぐし』（棟）部分がよく崩れ、自分も含めてみんな不安でした。現在は防災対策の一環として地震に備えているくらいで、特別な警戒や訓練は実施していません」

「無駄な穴」を有効利用

町の南、舞鶴山の山腹にある松代地震センターを訪ねる。ここは気象庁精密地震観測室でもある。古屋逸夫室長（地震センター所長兼務）が説明する。

「地震観測には、自動車の振動などの影響を受けない静かな場所が適している。たまたまここに観測所を設置したところへ、群発地震が発生したのです」

昭和二二年五月、中央気象台（運輸省所属）は、ここに掘られていた地下壕に着目し、地震観測に最適と観測所を発足させた。地下壕とは、昭和一九年一一月から終戦にかけて極秘裏に建設が進められた地下大本営のことだ。陸軍省は〝本土決戦〟を視野に入れ、大本営と天皇御座所の移転場所にこの地を選んだ。岩盤をくりぬいた三〇〇〇メートルの地下に総延長一万三〇七〇メートル、当時最長だった丹那トンネルの倍もある壕を掘る計画で、工事は運輸省に委託された。

すでに戦争末期。おもな労働力は強制連行した朝鮮人約七〇〇〇人であった。過酷かつ劣悪な労働条件のもと、四六人前後の犠牲者が出たとされるが、実数はさだかではない。終戦によって計画は中断したが、壕は七割がた完成していた。

昭和二二年一〇月、昭和天皇が長野市の展望台を訪問した時、当時の林虎雄知事に「戦時中、無駄な穴を掘ったところがあるというが、どの辺か」とたずねたという。陸軍が安全を期して掘ったその「無駄な穴」は皮肉にも、群発地震で大揺れに揺れた。が、気象庁が得た精確なデータは地震予知を推進、大規模地震対策特別措置法（五三年）の基礎となり、東海地震監視体制にも生かされている。

朝日新聞社

▲昭和40年10月、松代町の豊栄小学校で行われた避難訓練。

議するデモが一万五〇〇〇人に膨れ上がり、一七日の野党主催の市民大会には、三万五〇〇〇人が参加しました」

これに慌てた韓国政府は、四月一九日、全大学に一斉休校を命じた。

新聞各紙は、「過去の日本の韓国支配が国際法に反した実力行使による不法行為であった点を宣言させ、日本をしてわが国に負っている債務を支払わせ、わが国から持ち去った文化財を取り戻せ」と主張、政府批判を展開する。

日韓条約調印を目前にした六月九日、学生がデモを再開すると政府は再び大学を封鎖、二一日には非常戒厳令を発布する。調印当日の六月二二日には、戒厳令にもかかわらず野党議員ら三〇〇人、学生約二万五〇〇〇人がデモに参加。警官隊と衝突し逮捕、連行されたのは議員三八人と学生約一〇〇〇人、警官六〇人余りが負傷した。

「日本による植民地支配から解放されて二〇年、日韓会談が開かれ、本格的に日本と対面する時になって、韓国国内に鬱積していた反日感情が一気に噴き出したんです」(前出・高崎氏)

調印後も、反対運動はいっこうにおさまらず、批准に向けて激化していった。七月一二日には、「政府は沸きたぎる世論を、催涙弾と警棒による暴圧と仮飾に満ちた宣伝で封鎖する一方、日本に対しては理解できないほど焦り、伏して、乞うように屈辱的な協定に調印してしまった」という書き出しで始まる、ソウルの大学教授三五七人が署名した宣言文が発表され、一二日には、野党・秋風会の統計部長(六二)が調印に抗議して焼身自殺。さらに八月二四日、延べ一万三〇〇〇人の学生が波状デモを敢行。二六日になって完全武装した軍隊がソウル市内に入り、さながら〝内戦〟の様相を呈し始めた。批准阻止の運動が続く中、年末の一二月一八日に日韓両国政府が批准書を交換し、条約は発効した。

あいまいな「政治決着」が日韓両国民に残したツケ

一方、日本での反対運動は盛り上がらなかった。反対運動が、ようやく活発になったのは、この年の一一月六日に、衆議院日韓特別委員会で強行採決が行われてからである。〝善隣外交〟をうたい批准を急ぐ自民党と、条約を〝反共軍事同盟〟として反対する社会党との間で激しく論議され、強行採決後の九日には、六〇年安保以来初めて社共共催の大集会が開かれた。

両国政府が調印を急いだのは、次のような理由からだった。当時、韓国にとっては近代化が至上の命題で、それに必要な資金と技術を導入するには、急いで日韓条約を締結し、日本の経済協力を得ることが最も重要だった。

日本の財界にしてみれば、韓国市場に資本投資や製品輸出できるメリットがあった。また、東アジアにおける反共戦線の強化をはかりたかったアメリカには、対韓援助を日本に肩代わりさせるというもくろみもあった。

条約は両国間の「基本関係に関する条約」と四つの関係協定を含むものだった。日本政府は、賠償という言葉の代わりに「請求権・経済協力」という言葉を選び、三億ドルの無償資金と二億ドルの長期低利政府借款、三億ドル以上の商業借款を供与した。その結果、韓国経済は〝漢江の奇跡〟と言われるほどの高度成長をはたすことになった。国際ジャーナリストの歳川隆雄氏はこう語る。

「日本サイドから言えば、戦後賠償を含めて国民的論議がなされないままに、国交正常化が最優先されたんです。財界に〝賠償利権〟という言葉が生まれる一方で、歴史の清算を日本がやってこなかったツケが、今、従軍慰安婦問題などの形で我々国民にまわされているんです」

条約が締結され、発効して三三年。その間起きた歴史教科書問題をはじめとする諸問題は、いずれも条約が結ばれた時点で、解決されていなければならない性質のものだったのである。

▲6月22日、日本と韓国の国交正常化をめざして、10年余りにわたって続けられてきた交渉が妥結。両国内で反対運動が起こる中、日韓基本条約のほか4つの関係協定、議定書が東京・永田町の首相官邸で調印された。 共同通信社

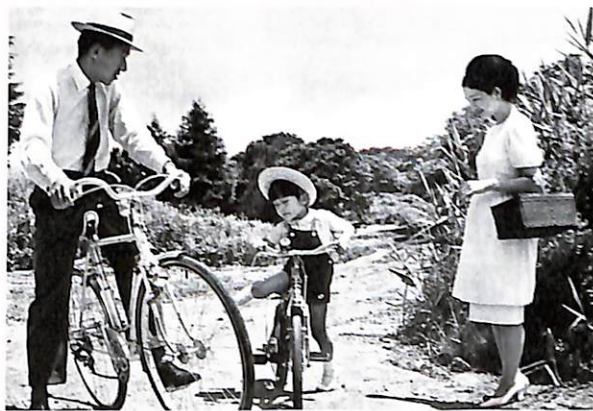
非常戒厳令下のソウルで2万5000人デモ 反対運動激化の中で「日韓条約」調印!

▶六月二二日の日韓条約調印に際して、ソウル市内の二〇の大学、二つの高校の学生がデモに参加した。

桑原史成

フォト＋日録で再現する365日

▼「少年ライフル魔」渋谷で乱射(7月29日)神奈川県座間町で職務質問をする警官一人を射殺、一人に重傷を負わせて逃走中の18歳の少年が、渋谷の銃砲店にたてこもり、包囲の警官隊と銃撃戦。逮捕された少年は、かっこよく撃ちまくりたかったと自供した。

▶軽井沢の夏を楽しむ皇太子一家(7月26日)21日に到着以来の雨がやみ、晴天となったこの日、宿泊先のプリンスホテル近くを父子水入らずでサイクリング。お二人の様子を見守る美智子妃は年末に出産を控える。

◀吉展ちゃん事件、悲痛な通夜(7月7日)38年に誘拐され、行方不明だった村越吉展ちゃんが、7月5日、容疑者・小原保の自供でやっと南千住の円通寺墓地で発見され、この日、2年3カ月ぶりに、変わりはてた姿で家族のもとに帰ってきた。

朝日新聞社

◀東武線北千住駅で地下鉄と貨車が接触(7月21日)高架線上で3両が大きく傾いたが転落をまぬがれ、乗客500人は無傷、メタノールなどを積んだ貨車も無事だった。原因は地下鉄運転手の不注意。

毎日新聞社

▼第3次ソ連本土墓参団(7月26日)遺族代表ら21人はハバロフスクの日本人墓地参詣後、初めてアルマアタ、イルクーツクの日本人墓地を訪問。写真はイルクーツクの406の墓石を前に追悼する遺族。

毎日新聞社

朝日新聞社

昭和40年7月

1(木)●名神高速道路、全線(小牧―西宮間)開通。

2(金)●エリザベス・サンダース・ホームの孤児七人が、共同入植のためブラジルに出発。

3(土)●エジプトのナセル大統領、日本での「ツタンカーメン展」開催を認める大統領令を発令。

4(日)●吉展ちゃん事件(38年3月)の容疑者・小原保、逮捕(5日都内の円通寺で遺体発見)。

5(月)●大学生の就職難打開で政府と財界が懇談会。

6(火)●銀行協会、企業への共同融資ルールを決定。

7(水)●労相、炭鉱事故防止策の実施を通産相に勧告。

8(木)●長野県の軽井沢で避暑をかねたアルバイト募集に学生の応募者が殺到、と新聞に。

9(金)●警察庁、運転技能試験を安全重視に改正。

10(土)●国産車の充実や利益率の低下で輸入車の取り扱いを中止する販売店が続出、と新聞に。

11(日)●米「平和のための婦人運動」代表、ベトナム婦人代表との会合地ジャカルタへの途中に来日。

12(月)●鹿島郁夫、小型ヨットでの大西洋横断に成功。

13(火)●「あゆみの箱」実行委、集まった七五〇万円の募金で、七五〇台の歩行器を寄贈と発表。

14(水)●参院選の小林章派選挙違反事件で、専売公社職員約一〇〇人逮捕(8月11日二一五人に)。

15(木)●国鉄、安全第一の運転取扱基準規程を実施。

16(金)●僻地校の完全給食実施は三〇%と文部省。

17(土)●都内での交通事故死はゼロ。この年事故死ゼロの日は三回目で新記録と警視庁。

18(日)●家電販売不振の中、クーラーは好調と新聞に。

19(月)●名古屋競輪場で走路に釘が撒かれレース中止。

20(火)●警視庁、「トルコ風呂」一斉捜索で六九人検挙。

21(水)●平均寿命は男六七・七、女七二・九歳と厚生省。

22(木)●フィリピン、青年海外協力隊受け入れを表明。

23(金)●焼津市で中学生用の漁業練習船が、女子生徒含む一八人を乗せ処女航海。

24(土)●沖縄・宮古島で製糖三社の合併に反対する農民七〇〇〇人が警官隊と衝突。五人検挙。

25(日)●日本医学協会設立。医療制度改善などが目的。

26(月)●厚生省、低所得の妊婦らにミルク支給を決定。

27(火)●静岡市登呂遺跡で弥生時代の水田跡発見。

28(水)●国際技能五輪で日本は金六、銀五、銅二。

29(木)●警官二人を殺傷後、渋谷区で少年がライフル銃を乱射(一八人負傷。少年ライフル魔事件)。
●B52三〇機が沖縄を発進しベトナムを空爆。

30(金)●モスクワで大相撲興行、二万五〇〇〇人観戦。

31(土)●戦前からの大衆劇場、東京浅草の常盤座閉鎖。

証言・あの日この日

犬養道子(44)

5月6日(木) 〈このごろ私は、日本人が自然愛好者だということに、大きな疑いを持つようになった。日本から来る新聞を見ると、緑の島ハワイにゆこう、とか、森と湖の町××にゆこう、などという広告に目がゆく。何もハワイやヨーロッパまで緑にかざられた島や町を見にゆかなくともよさそうだ。そんなに緑や森が賞でたいなら、自分の島や町から、なぜ、むざむざと緑や森を「殺して」しまうのか。分譲住宅地を赤裸に「整備」してしまうのか〉(犬養道子『マーチン街日記』)

アメリカが北ベトナムに爆撃を開始した時、犬養道子はハーバード大学研究室員として、その国にいた。しかしアメリカは精神的な豊かさをいまだ失っていない。4月3日の日記で犬養は、身体障害者に対する環境や人々の意識の違いを、やはり日本と比較して語る。(坪内祐三)

朝日新聞社

▲深夜映画取締り(8月1日)警察庁が青少年非行化の温床になると、全国に指示。この頃、深夜興行の映画館は全国1430館、うちオールナイトが417館も。写真は午前4時の浅草の映画館内。

WWP

◀飯島秀雄、100メートル10秒1で優勝(8月26日)ブダペストで開かれたユニバーシアード大会決勝で日本タイ記録、大会新の快挙。2位はアンダーソン(米国)。

岡村昭彦

◀南ベトナム軍の掃討作戦(8月)米軍の本格的介入が始まったが、各地では米軍の軍事顧問団のもと政府軍が解放戦線と戦った。写真は中部高原で政府軍指揮のシコルツコフ(左)。後に多国籍軍の司令官になった。

朝日新聞社

▼エジプトの秘宝「ツタンカーメン展」開催(8月21日)東京・上野の国立博物館で幕開け。東京公開は10月10日までで、その間約130万人の入場者があった。写真は評判の黄金のマスクに見入る観客。

朝日新聞社

▲三笠宮甯子さん(21)、婚約(7月28日)宮内庁は日赤本社勤務の近衛忠煇氏(26)との間で内定したと発表。忠煇氏は戦前に近衛文麿首相の秘書官をつとめた細川護貞の次男で、前年3月、近衛家の養子となった。

昭和40年8月

1(日)●大阪港でタグボートに衝突された遊覧船が沈没。子ども会の母子ら二〇人が死亡。

2(月)●韓国、文化流入抑止など対日規制案を発表。

3(火)●長野県松代町に地震(松代群発地震の初震)。

4(水)●国会図書館、明治以降発行の全国の新聞七〇〇万ページをマイクロ化する計画を発表。

5(木)●タンカー「海蔵丸」がペルシア湾で爆発。

6(金)●服部満彦と渡部恒明、マッターホルン北壁登頂に日本人として初めて成功。

7(土)●不況長期化で希望退職募集など急増と新聞に。

8(日)●韓国の原爆被爆者は約二〇〇〇人、と新聞に。

9(月)●シンガポール、マレーシア連邦から独立。

10(火)●経企庁、安定成長を強調の『経済白書』発表。

11(水)●帝人、ミニスカート「テイジンエル」を発売。
●ロサンゼルスで黒人暴動発生(ワッツ暴動)。

12(木)●鳥取県、給食での集団食中毒で缶入りジュースからスズを検出。二メーカーに回収を指示。

13(金)●人事院、国家公務員給与の六・四%アップを勧告(六年連続の引き上げ)。

14(土)●東京で「戦争と平和を考える」徹夜ティーチ・イン開催(テレビ中継、途中打ち切り)。

15(日)●高田光政、アイガー北壁に日本人では初登頂。

16(月)●東映京都撮影所俳優クラブ組合、解散。

17(火)●三木通産相、乗用車輸入自由化の実施を発表。

18(水)●七月の百貨店は一〇年来の不振と通産省。

19(木)●佐藤首相、沖縄を訪問。戦後初の首相訪問。

20(金)●東京都、隣接三県と広域大気汚染調査を実施。

21(土)●東京で「ツタンカーメン展」開幕。

22(日)●夏の甲子園で三池工業が工業高として初優勝。

23(月)●韓国で条約批准に反対する二〇日以来の学生デモが拡大、軍隊が出動(26日衛戍令)。

24(火)●厚生省、アルゼンチンからの輸入馬肉からサルモネラ菌などを検出、約六〇トンを破棄処分。

25(水)●文化財保護委、尾瀬湿原立ち入り禁止を提言。
●アムステルダムの運河にトランク詰めの日本人商社員のバラバラ死体(9月犯人逮捕)。

26(木)●北海道登別温泉の牧場から熊一六頭が脱走。ハンターら二〇〇人が追跡し一〇頭射殺。

27(金)●戦後初のサハリン墓参団が稚内港を出港。

28(土)●大阪国際博覧会を「万国博覧会」に改称と決定。

29(日)●鉄鋼労連、国際金属労連への加盟を決める。

30(月)●広島高裁、八海事件の再差し戻し審で四被告に死刑を含む有罪判決。弁護側は上告。

31(火)●京都市の松竹京都撮影所が閉鎖される。

朝日新聞社

◀アベック台風各地に被害(9月18日)9日以来台風23・24号が相次いで上陸し、中部・近畿・四国を中心に、死者は合わせて165人、行方不明15人の大きな被害を出した。写真はこの日、土砂に流された柏崎市内の信越本線。

WWP

▲印パ両国、停戦を受諾(9月23日)カシミールの帰属をめぐって紛争中のインドとパキスタンは、22日、国連の決議に同意し停戦が成立したが、この日も散発的に戦闘が続いた。写真は戦車を見るインドの市民。

朝日新聞社

▼アマチュア天文家、新彗星発見(9月19日)静岡の池谷薫氏(21)と高知の関勉氏(34)は、同時刻に「今世紀最大」と言われる新彗星を発見、「イケヤ・セキ彗星」と命名された。写真は手製の望遠鏡で観測する池谷氏。

読売新聞社

▼23歳の林海峯、名人位獲得(9月19日)坂田栄男名人との第4期囲碁名人戦第6局が、石川県七尾市で行われ、林8段(右)が224手で12目勝ちし、4勝2敗で新名人となった。

毎日新聞社

◀鶴ケ城天守閣落成(9月17日)会津若松市の鶴ケ城は、明治7年の取り壊し以来、91年ぶりに再建。天守閣は高さ37.5メートルで、鉄筋コンクリート造り、建設費は一億五千万円余。

昭和40年9月

1(水)●長野県下諏訪町に日本初の身障者社会復帰施設、労災リハビリテーション作業所が完成。
●インドとパキスタンが武力衝突(23日停戦)。

2(木)●同志社大遠征隊がアマゾン川源流一三〇〇キロのボート下りに成功と入電。

3(金)●YS11機の対フィリピン輸出契約調印。

4(土)●全国精神障害者家族連合の結成大会を開催。

5(日)●映画「赤ひげ」、ベネチア市賞受賞(6日三船敏郎、ベネチア映画祭最優秀男優賞受賞)。

6(月)●WHO、肺癌発症と喫煙は密接な関係と警告。

7(火)●関東一円にアメリカ・シロヒトリが大量発生し、都内の街路樹二〇万本が被害、と新聞に。

8(水)●ベトナム戦争を撮影した沢田教一の「安全への逃避」を「朝日新聞」が掲載。

9(木)●運輸相、山陽新幹線(大阪—岡山間)工事認可。

10(金)●厚生省、昭和電工鹿瀬工場排水口付近の阿賀野川から多量の水銀を検出と発表。
●東京の女子高生が「背を伸ばす器械」で窒息死。

11(土)●建設省、公営住宅建設に浴室追加と決定。

12(日)●防衛庁職員が南ベトナムで米軍機同乗と判明。

13(月)●中央競馬八百長事件で騎手三人を逮捕。

14(火)●戦後初の政府派遣訪ソ経済使節団、外国貿易相と会談し貿易協定交渉の一〇月開催を決定。

15(水)●東邦大大森病院、初の「父親学級」を開講。

16(木)●まりも保存会、阿寒湖で台風二三号で打ち上げられたまりもを湖に返す作業を始める。

17(金)●会津若松市の鶴ケ城天守閣が再建され落成式。

18(土)●台風二四号で、福井・奈良・和歌山・静岡など各県で山崩れ続出、死者九八人に。

19(日)●池谷薫と関勉が同時に新彗星を発見。

20(月)●被爆者の医療等に関する法を一部改正公布。新たに四万人の被爆者を救済。

21(火)●東京都、児童福祉審に「カギっ子」対策を諮問。

22(水)●お茶の水女子大自治会、学寮規程改正に反対して無期限スト(10月1日解決)。

23(木)●水戸射爆場の演習で米軍機が農家などに誤射。

24(金)●国鉄、全国一五二駅に「みどりの窓口」開設。

25(土)●高松地裁、作家・大藪春彦らのピストル密輸事件で執行猶予三年の判決。

26(日)●金沢市で国政に関する公聴会(一日内閣)。

27(月)●石川島播磨の世界最大タンカー「東京丸」進水。

28(火)●中村勘三郎ら訪欧歌舞伎団六九人、出発。

29(水)●住宅公団、プレハブ工法で千葉市の団地着工。

30(木)●都の水道水の四割が漏水などで浪費と新聞に。

◀韓国軍、南ベトナムへ増派決定(10月10日)すでに1個師団、2万人が派遣されて戦闘に加わっていた韓国軍だが、新たに1万5000人の増派が決まり、この日、ソウルの空軍基地に市民10万人を集めて壮行会(写真)が開催された。先遣隊670人は、8日、クイニョン港に上陸している。

沢田教一

▶南海の野村、三冠王達成(10月21日)藤井寺球場での対近鉄戦でシーズンの全日程を終了し、打率3割1分9厘、打点110、本塁打42本で、2リーグ分裂後初めての栄冠が決まった。写真左端はナインに祝福される野村選手(30)。

読売新聞社

Popperfoto/ユニフォト・プレス

◀ビートルズ叙勲(10月26日)外貨獲得に貢献したことが認められ、叙勲者200人とともに、エリザベス女王から直接MBE勲章を授与された。写真はバッキンガム宮殿の外で、ビートルズを待つファン。

▶朝永振一郎博士(59)、日本人二人目のノーベル賞受賞(10月21日)量子力学分野での基礎研究が認められ、アメリカの科学者二人との共同受賞。写真左から朝永博士、長男の惇さん、領子夫人。

◀タンクローリー爆発(10月26日)西宮市の第二阪神国道を走行中、歩道橋に衝突後軽自動車に接触して横転。積んでいたLPガスが爆発し、道路沿いの民家24戸が全半焼、住民ら28人が死傷した。

朝日新聞社

朝日新聞社

昭和40年10月

1(金)●インドネシアで軍左派がクーデターを起こし失敗(九・三〇事件。3日共産党弾圧開始)。

2(土)●東富士演習場で米軍、地元の抗議の中、地対地ミサイル「リトル・ジョン」の発射を強行。

3(日)●チェ・ゲバラがキューバから南米出国と判明。

4(月)●サハリンからの引揚げ七家族四四人、帰国。

5(火)●ライシャワー駐日米大使、「毎日新聞」外信部長・大森実のベトナム報道を「偏向」と批判。

6(水)●初のカラーアニメ「ジャングル大帝」放映開始。

7(木)●子どもマンガが大学生にも人気で、書店での立ち読みなどトラブル多発、と新聞に。

8(金)●国立福山病院で日本初の胎児輸血治療実施。

9(土)●気象庁、松代群発地震で初の地震予報を発表。

10(日)●家永教科書検定訴訟を支援する全国連絡会結成。弁護士・出版関係者ら百余人が参加。

11(月)●公取委、減産率を三〇%強化したカメラ一二社の不況カルテル六ヵ月延長を承認。

12(火)●日韓条約批准阻止で一〇万人が国会請願デモ。

13(水)●徳島県阿南市議会、議長選めぐる贈収賄容疑で半数が起訴されたため全議員の辞職を承認。

14(木)●政府、ラッシュ緩和に時差通勤の通年化決定。

15(金)●通産省、消費生活改善苦情処理制度を発足。
●全米でベトナム反戦集会。徴兵カードを焼く。

16(土)●全逓に対抗する全日本郵政労働組合、結成。

17(日)●会津若松市で幼児三人が冷蔵庫内で窒息死。

18(月)●政府の審議会、東北など五高速道建設を承認。

19(火)●玩具国際見本市開催。八八社が五万点出品。

20(水)●ロンドン国際自動車ショーに、トヨタの「コロナ」など日本車が初めて出展される。

21(木)●朝永振一郎にノーベル物理学賞授与と発表。
●野村克也、プロ野球戦後初の三冠王を獲得。

22(金)●警視庁、盗品を学校で売っていた練馬区の「サーキット」族の中学生ら二五人を補導。

23(土)●文部省、中卒者の進学率が七割を突破、就職者の都市集中は鈍化していると発表。

24(日)●大阪女学院の運動会で風船爆発。一八人火傷。

25(月)●大阪万博のテーマ「人類の進歩と調和」に決定。

26(火)●ビートルズ、英女王からMBE勲章を受章。

27(水)●三〇大学が次年度に推薦入学を採用と新聞に。

28(木)●観閲式演習の自衛隊戦車四四両が早朝の新宿を通過。警察にクーデターかとの電話殺到。

29(金)●少年犯罪の低年齢化が進むと『犯罪白書』。

30(土)●アルジェで初のアジア・アフリカ外相会議。

31(日)●阿蘇中岳第一火口が七年ぶりに爆発。

▲ドラフト1期生誕生（11月17日）日比谷の日生会館でプロ野球初のドラフト会議が開かれ、注目された堀内恒夫は巨人が、木樽正明は東京が交渉権を獲得した。写真は巨人入団を決めた江藤省三（左）と堀内。平松政次、江本孟紀らは入団を拒否した。

読売新聞社

朝日新聞社

▲新東京国際空港、富里に内定（11月18日）候補地にあげられてから2年、村は賛成派と反対派に分裂していたが、この日、関係閣僚懇談会で内定し長期にわたる成田空港問題の発端となった。写真は野菜を収穫する富里村。

◀礼宮誕生（11月30日）美智子妃は、宮内庁病院で第2皇子を出産した。身長51センチ、体重3000グラム。12月6日に礼宮文仁親王と命名された。写真は12月11日、東宮御所へ戻る皇太子ご一家。

時事通信社

▼フィリピンの大統領選、マルコス勝利（11月9日）44人の死者を出す激しい選挙戦を展開。この日投票が行われ、現職のマカパガル大統領を破って当選した。写真は12月30日、8万人のマニラ市民の前で就任の宣誓をするマルコス（中央）。

WWP

▼「チタ2世号」帰国（11月1日）前年の6月に名古屋港を出航、初めてヨットで太平洋往復横断に成功、513日ぶりに帰港した。クルーは名古屋大OBの左から吉田弘明艇長（30）、戸塚宏氏（25）、曽我二郎氏（31）。

朝日新聞社

読売新聞社

▲隻腕のチャンピオン（11月22日）専修大の北村秀樹選手は、全日本学生卓球選手権男子シングルス決勝で、愛知工大の長谷川選手を3対0で破り、日本一に輝いた。神戸の戦災で右腕をつけ根から失い隻腕だった。

昭和40年11月

1（月）●初の子ども専門総合病院、国立小児病院開院。

2（火）●泉佐野市民会館、エレキ演奏やモンキーダンスの集会に会館を貸さないと決める。

3（水）●日産初の自動車輸出専用船が米国に向け出航。

4（木）●静岡県の私鉄各社、国鉄・私鉄職員の相互無料乗車の中止を申し合わせる。

5（金）●プロ野球日本シリーズで巨人が南海を四勝一敗で下し優勝（以後48年までV9）。

6（土）●第一回全国身体障害者スポーツ大会開幕。

7（日）●富士山で雪渓滑落事故が四件発生。二人死亡。

8（月）●青森県、消息不明出稼ぎ者の公開調査始める。
●日本テレビ「11PM」の放映開始。

9（火）●フィリピンの大統領にF・マルコス当選。

10（水）●日本原子力発電東海発電所が営業運転を開始。
●上海「文匯報」が歴史劇「海瑞罷官」批判の姚文元論文を掲載。文化大革命の発端に。

11（木）●水産庁、北海道でのサケの餌づけ・放流に成功。

12（金）●自民党、衆院で日韓条約批准を強行可決。

13（土）●サリドマイド被害者二八家族が賠償を提訴。

14（日）●三島由紀夫作の「サド侯爵夫人」が初演。

15（月）●東洋紡績、呉羽紡績を吸収合併。

16（火）●べ平連、「ニューヨーク・タイムズ」紙にベトナム反戦の全面意見広告を掲載。

17（水）●第一回プロ野球新人ドラフト会議開催。堀内恒夫（巨人）、長池徳二（阪急）らを指名。

18（木）●関係閣僚懇談会、新東京国際空港建設地を千葉県富里村に内定。

19（金）●閣議、戦後初の赤字国債発行を決定。

20（土）●南極観測が再開され、「ふじ」が出航。

21（日）●米軍がベトナムで化学毒物散布と新華社電。

22（月）●初の『砂利白書』。三年で川砂利は枯渇と指摘。

23（火）●前年実施の国際数学テストの初級（中学二年）で、日本は参加一二ヵ国中一位、と新聞に。

24（水）●東京・大阪の独身勤労者は服・レジャーに収入の三割支出、と経済企画庁調査。

25（木）●千葉県富里村議会、新空港建設反対を決議。
●人事院、森林作業員の白蝋病を職業病に認定。

26（金）●米、原子力空母「エンタープライズ」を第七艦隊に配属と発表（政府、日本寄港を承認へ）。

27（土）●IMF対日協議終了。日本の財政政策を評価。

28（日）●紫式部の父・藤原為時の屋敷跡と確認された、京都の廬山寺で邸宅跡記念碑の除幕式。

29（月）●初の『コンピュータ白書』。台数は世界二位。

30（火）●美智子妃第二子を出産（礼宮文仁親王）。

WWP

▲ランデブーに成功（12月15日）4日打ち上げられた米国の「ジェミニ7号」は、この日6号と出会い、窓越しに同僚を確認。この実験で7号は、330時間の宇宙滞在記録も樹立した。写真は7号から撮影した6号。

TBS提供

◀美空ひばり、「柔」でレコード大賞（12月25日）古賀政男作曲、関沢新一作詞による、同名のテレビドラマの主題歌。レコードの販売枚数は150万枚を記録した。写真は大賞発表音楽会で受賞曲を熱唱するひばり。

共同通信社

▲シンザン、初の五冠を達成し引退（12月26日）中山競馬場で行われた有馬記念で、最終コーナーを3番手でまわり、直線コースを外柵いっぱいに走って優勝した。騎手は松本善登。39年の皐月賞、日本ダービー、菊花賞を制覇、40年秋の天皇賞にも優勝し四冠馬となっていた。

▶第三京浜道路、出るに出られぬ横浜口（12月19日）東京と横浜を12分で結ぶ日本初の6車線。1日7万2000台をさばくはずだったが、横浜側出口に連絡する市道が1車線で車の流れが悪く、信号6~8回待ちのノロノロ運転となった。

◀吹原弘宣に保釈決定（12月22日）自民党の総裁選にからみ、三菱銀行から30億円の預金証書を詐取しようとした吹原事件で、4月に逮捕、起訴された。写真中央が吹原被告。

毎日新聞社

朝日新聞社

昭和40年12月

1（水）●アジア開発銀行本店がマニラに置かれると決定。日本の東京誘致は失敗。

2（木）●富山県中学校長会、入試向け補習全廃を決定。

3（金）●法制局長官、自衛目的の核保有は合憲と答弁。

4（土）●東京ボウリング場協会、深夜営業中止を決定。

5（日）●大阪の四天王寺で最澄の印信（免許状）発見。

6（月）●広島空港でYS11機が暴走。整備員一人死亡。

7（火）●大阪で住宅公団初の一四階建て高層住宅着工。

8（水）●早大で学生会館の運営めぐり学生がバリケード闘争（11日機動隊が学生排除）。

9（木）●長野県北相木村で縄文前期の人骨発見。

10（金）●日本、国連安保理の非常任理事国に当選。

11（土）●北京動物園でパンダを初公開、と新聞に。

12（日）●西宮市で、連続強盗殺人容疑の古谷惣吉逮捕（11月以来八人を殺害）。

13（月）●学生の生活費は二年で二二％増と文部省調査。
●四〇年の造船進水量が一〇年連続の世界一位。

14（火）●徳島県の高校入試体育実技で倒れた生徒二人が死亡。県教委は次年の実技実施を白紙に。

15（水）●不況下の前年も企業交際費は一六％増と判明。

16（木）●名阪国道（天理―亀山間）が開通。

17（金）●厚生省、尾瀬の自然を守る六ヵ年計画を発表。

18（土）●第三京浜道路が開通。高速道初の六車線。

19（日）●横浜港から一一月に貨物船で密航した五人の中学生、メキシコまで往復し千葉港に戻る。

20（月）●東大・名大・群馬大各附属病院の無給医局員三四〇人、身分保障を要求し初の診療拒否。
●沖縄行政主席の任命制を間接選挙制に改定。

21（火）●宇佐美宮内庁長官、随員や警備の簡素化など皇室の古いしきたりの改革を表明。

22（水）●臨時家内労働調査会、内職者六七万人の九割は女性で最低工賃の保証を、と労相に報告。

23（木）●建設省、河川敷の占用許可準則を通達。ゴルフ場など営利目的の施設は不許可。

24（金）●日本橋に自販機五三台の食堂開業と新聞に。

25（土）●出生数が一二年ぶり一八〇万人台と厚生省。
●美空ひばり、「柔」で初のレコード大賞受賞。

26（日）●シンザン、有馬記念に優勝し初の五冠馬に。

27（月）●文化財保護委、絶滅のおそれがあるコウノトリの増殖を再び試みることを決定。

28（火）●文部省、朝鮮人学校の各種学校不認可を通達。

29（水）●ハンセン病治療団四人がインドへ出発。

30（木）●南米移民一一九人を乗せた「ぶらじる丸」出航。

31（金）●不況で百貨店売り上げが前年比微増と新聞に。

俄楽多市（がらくたいち）

▼6月5日、大阪市で市電車両を借りきって、結婚式をあげたカップル。

流行語
イタリア製(!)の西部劇登場

「マカロニ・ウエスタン」。西部劇はアメリカという常識を破ってこの年、イタリア製の西部劇「荒野の用心棒」が公開され、大ヒットした。メキシコを舞台にアメリカ製とはひと味違うヒューマニズムが描かれていたこと、派手なアクションシーンが人気を呼んだのだ。これをきっかけにイタリア製の西部劇が次々と作られたが、「荒野の用心棒」を映画評論家の淀川長治（よどがわながはる）氏が、「マカロニ・ウエスタン」と呼んだことから、マカロニ・ウエスタンがイタリア製西部劇の代名詞となった。なお、俳優のクリント・イーストウッドは「荒野の用心棒」をはじめ、多くのマカロニ・ウエスタンに主演したことがきっかけで、世界的な俳優になった。

「やったるで！」。東京オリンピックをきっかけに、スポ根（スポーツ根性）が時代の大きな流れになり、「根性」や「おれについてこい！」などのスポ根言葉が流行した。これもそのひとつで、四〇勝投手・金田正一の本のタイトルだが、その歯切れのよさと金田投手のキャラクターがマッチしてもてはやされた。

CM100年　タレント・扇千景

テレビCF
「私にも写せます——フジカ・シングル-8」（富士写真フイルム）

データ
健康、サラリー、衣類……東京の二〇歳の女性像

女性週刊誌が各種のデータをもとに、東京に住む二〇歳の女性の総合的研究を行った。それによると東京在住の二〇歳の女性は一六万一六八二人で、東京生まれはそのうちの四〇パーセント。

健康面では肩こり、イライラなどを含めると一人平均三・七の病気の自覚症状がある。ワーストファイブはまぶたがピクピクする五〇人、胃が悪い四九人、肩こり四八人、便秘四六人、イライラする三六人。虫歯は平均五本、うち四本は歯医者が恐いからと未処置。

サラリーは平均一万六六四八円（高卒）。最高は出版の一万八三六一円。低いのは建設の一万五七五五円。

持っている化粧品は口紅五本、クリーム三個、化粧水二本、ファンデーション二種類など。マニキュア、オーデコロンは各一本。衣類はワンピース七着、スカート八枚などで、下着はスリップ六・五枚にブラジャー四・七枚、ショーツ九枚。下着はいずれも地方在住の女性の倍で、その差は年々開きつつある。

（「週刊女性」九月一日号）

◀「漫画サンデー」で園山俊二「ギャートルズ」連載開始

人気投票
ナンバーワンは三船敏郎 男らしい日本人とは

男性週刊誌が「最も男らしい日本人」の読者投票を行った。それによるとトップが三船敏郎の二万三五五八票、二位は大松博文（だいまつひろふみ）（女子バレー監督）の二万二三六一票。三位は長嶋茂雄で得票はやや落ちて一万三三〇〇票。次いで四位が松下幸之助、五位が石原裕次郎。さらに河野一郎、植木等、池田大作、金田正一、田中角栄までがトップテン。大松氏は「私を選んでくれた若者は、私の"為（な）せば成る"精神をよくかみしめてほしい」と注文している。

（「週刊平凡パンチ」五月一〇日号）

地方
カカア天下の上州は日本一親切な県(?)

小さな親切運動本部が、これまでに一七回贈った実行章の受章者を調べた。その結果、第一位は七五人の群馬県で断トツ。次いで岩手県の四一人、愛知県の三五人。

（「週刊大衆」一〇月一四日号）

三面記事
どこまでも甘ったれた強盗

東京・世田谷区の会社重役方に強盗が入った。男（一八）は留守番していた主婦（五九）に包丁を突きつけると、現金二万三五〇〇円と洋酒五本を奪ったうえ、この主婦を質屋まで同道して品物を入質させ、その金までかっぱらって逃げた。ところが翌日の未明、この男が再びやって来て、今度は「ひと晩泊めてください」。

しかし、用心のために泊まりこんでいた甥（おい）（二七）に取りおさえられた。自供によると、「奪った金で酒を飲み、洋酒を売って宿泊代を作ろうと思ったが、売れずに宿泊代がなくなった。その時、昨日の奥さんは感じのよさそうな人だったから、洋酒を返したら罪を許してくれて、ひと晩くらい泊めてくれるような気がした」。

そう考えた男は、新宿からタクシーで、その家に直行してきたという。

（「サンケイ新聞」六月一〇日）

博多の町のコンドーム異変

〔福岡発〕シーズンでもないのに福岡市内の薬屋さんでコンドームが飛ぶように売れている。

ゴム製品のシーズンは春と灯火親しむ秋口が相場だが、今年は二月から売れ始め、どこの店でも二割以上の売り上げ増。

そこでいろいろ調べていくうちに医療費値上げのあおりだとわかった。すなわち、今まで三〇〇〇円だった中絶のヤミ相場が医療費値上げで四〇〇〇円にハネ上がり、後の処置に四、五日通院すれば、しめて五〇〇〇円近くになってしまう……というわけ。そこで"あとは野となれ……"の組まで、やむをえず使用せざるをえなくなったものらしい。医療費値上げの意外な効果と薬屋さんはニンマリ。

（「週刊文春」三月一五日号）

驚然たる話題！歌舞伎座初出演で空前の初顔合せ！
上方喜劇顔見世大合同
一日初日↓二十五日
芸術祭参加十月特別公演

▲10月1日、藤山寛美ら関西喜劇のスターが東京の歌舞伎座に初出演。

会津の山奥に赤い腰巻き旋風

〔福島発〕福島県三島町で、突如、赤い腰巻きブームが起きている。これは前年の三九年一二月、誰言うともなく「タツ年の暮れに赤い腰巻きを母親に贈ると中風にならない」という噂が広がり、われもわれもと赤いネルを買って母親に贈った。このため町の呉服屋から赤いネルがまったくなくなるという珍事まで起こったが、年があけるとともに母親族がプレゼントされた赤い腰巻きをチラチラさせながら闊歩（かっぽ）し始めたというわけ。

妙なことがはやり出したため、目のやり場に困る、イヤ、いい目の保養だと、男性にまで波紋がおよんでいる。

（「福島民報」一月一四日）

▶石ブームで、鎌倉・大船両署は遺跡をパトロール。

海外
ユーゴスラビア在住 二二年間一睡もせぬ男

ユーゴのヘルツェゴビナで、この二二年間、一睡もしたことのない人が大きな話題になっている。フラニオ・ミクーリンさん（二九）で、第二次大戦中の一九四三年、フラニオ坊やは、近くで手投げ弾が爆発した時に失神し、その夜以来、いくら眠ろうとしても眠ることができずじまい。それでも健康で、何不自由ない。

軍隊時代は上官にわけを話して毎晩不寝番を引き受けたという。記憶力も抜群で、除隊後七年たった今でも小隊の銃の番号を全部おぼえている。ミクーリンさんの悩みはただひとつ、「夜長をもてあます」ことだそうだ……。

（「週刊朝日」一月五日号）

この年の初もの
ピンク映画の専門誌「成人映画」創刊

●紙幣の使える乗車券発売機　名鉄名古屋駅に登場。

●喫茶店でのモーニングサービス　豊橋市の喫茶店が始め、たちまち市内に広がった。

はやり歌

函館の女（ひと）

はるばるきたぜ　函館へ
さかまく波を　のりこえて
あとは追うなと　いいながら
うしろ姿で　泣いてた君を
おもいだすたび　逢いたくて
とてもがまんが　できなかったよ

函館山の　頂（いただき）で
七つの星も　呼んでいる
そんな気がして　きてみたが
灯（あか）りさざめく　松風町は
君の噂も　きえはてて
沖の潮風　こころにしみる

▲北島三郎のミリオンセラー、「函館の女」（星野哲郎作詞、島津伸男作曲）。

女心の唄

あなただけはと　信じつつ
恋におぼれて　しまったの
こころがわりが　せつなくて
つのる想いの　しのび泣き

どうせ私を　だますなら
だまし続けて　欲しかった
酔っている夜は　痛まぬが
さめてなおます　胸の傷

うわべばかりと　つい知らず
惚（ほ）れてすがった　薄情け
酒が言わせた　言葉だと
なんでいまさら　逃げるのよ

女ですもの　人並みに
夢をみたのが　なぜ悪い
今夜しみじみ　知らされた
男心の　裏表

逃げた人なぞ　追うものか
追えばなおさら　辛くなる
遠いあの夜の　想い出を
そっと抱くたび　ついほろり

▲バーブ佐竹は、この歌で第7回レコード大賞新人賞受賞。山北由希夫作詞、吉田矢健治作曲。
JASRAC（出）許諾第9703294-701号

ゴルフ、競馬、麻雀……遊び心に市民権
初の深夜番組「11PM」の本音とインパクト

東京オリンピックが終わり、その熱気もようやく一段落した昭和四〇年、日本は一転して不況に見舞われ、いわゆる〝四〇年不況〟が到来した。この、高度成長期の谷間とも言える年に、テレビ界に画期的な番組が出現した。日本テレビの深夜ワイドショー「11PM」である。

空白の時間帯を埋めろ 日本初の深夜番組登場

昭和四〇年一一月八日の深夜、音楽番組の構成作家だった大橋巨泉（三一）は、自宅でテレビ画面を見つめていた。「11PM」という新番組の第一回目が放映され、その批評を求められていたからである。放映は午後一一時一五分に始まったが、構成はニュースショーに近いもので、あくまでも報道番組の性格が強く、「硬い」という印象が残った。

巨泉はこの年の夏、当時、日本テレビの芸能局プロデューサーだった井原高忠（三六）に呼ばれ、中原弓彦（作家・小林信彦）ら五～六人とともに、深夜にぶつける新番組への意見を求められていた。そしてこの日、初回の番組ディレクターで、親友でもある横田岳夫からも、番組を見るように言われていたのである。

前年の四月から、朝の時間帯の番組として、NET（現・テレビ朝日）で「木島則夫モーニングショー」が始まり、それに各局が追随して、次々に同様の番組が制作されていた。テレビにとって空白の時間帯は、深夜だけとなった。その深夜の時間帯を、生きたものにしようとしたのが井原高忠である。

「11PM」は、月・水・金曜日を東京の日本テレビが、火・木曜日を大阪のよみうりテレビが担当した。東京の司会は、「週刊読売」の元編集長・山崎英祐で、大阪は作家の藤本義一（三二）だった。

第一回目の放送は視聴率五・六%（ニールセン調べ）で、以降、ほぼ一ケタ台の数字で推移していく。また、番組広告はすべてスポットだった。当時、深夜番組のスポンサーを引き受ける企業はなく、スポットはそのための措置でもあったが、一方では、それがスポンサーの意向にとらわれない自由な番組作りの有効な手段になった。その姿勢は終始一貫したものになる。

仕事もしろ、ただし遊びも一生懸命に

「初めは報道色が濃すぎて失敗だったので、つとめてリラックスした、肩ひじの張らない番組にしようと考えた。特に金曜日は、今までテレビで取り上げなかったレジャーやギャンブルもすすんで扱っていった」

これが、昭和四一年四月から、新たに金曜日の司会を担当することになる大橋巨泉の、番組に対する考え方であった。スタートから四ヵ月、東京のスタッフのほとんどが入れ替わり、司会者も一新した。巨泉のほかに、月曜日と水曜日は、音楽評論家で、名司会者でもある小島正雄が担当した。

金曜日の番組というのは、麻雀、競馬、ゴルフ、釣りなどの、ギャンブルとスポーツを中心にした構成で、それにちょっとしたお色気が加わった。

また各曜日のアシスタントとして朝丘雪路・松岡きっこなどが花を添え、ジューン＝アダムス・杉本エマなどのカバーガールが男性を魅了した。こうした男性の遊び心をくすぐる番組作りは、時代を

▲日本テレビ制作の「11PM」は、41年4月に大橋巨泉（左）が登場してから一変する。「野球は巨人、司会は巨泉」と称して、洒落やアドリブを連発する明るい司会ぶりが人気を集めた。5月からは朝丘雪路（右）がアシスタントに起用される。 野上透

◀よみうりテレビ制作の「11PM」は、火・木曜日放映で、関西弁のユーモラスなやりとりが魅力だった。右から司会の藤本義一、アシスタントの安藤孝子、医師の木崎国嘉。 野上透

外から見たNIPPON

「蒙古の徳王」が終生持ち続けた日本と〝対等〟の視線

佐伯 修

「ドムチョクドンロプ」という本名よりも、「蒙古の徳王」と呼ぶ方が、わかりやすいだろう。一三年におよぶ収容所生活を終えた彼が、その数奇な政治的半生の回想を口述し終えたのは、この年、一九六五年のことで、翌年、彼は世を去る。

徳王は、清朝末期の一九〇二年、内モンゴルの一地域、チャハル部の族長の子として生まれた。彼は、清朝や中華民国の支配下で名目的存在に甘んじていた、ほかのモンゴル王族たちを尻目に、チンギス・ハンの精神を継承し、他民族の支配を脱し、全モンゴルの独立を夢見た。

徳王は、まず、蔣介石の国民政府を相手に、高度自治権要求運動を起こす。しかし、国民政府が、モンゴルを中国の一地域にとどまらせようとすることに失望、モンゴルも「満州国」のように独立させると言って接近して来た日本の力を借りようとした。

そして、徳王は、関東軍の支援のもと、「蒙古軍政府」さらに「蒙古連合自治政府」を成立させた。ただし、単純に日本側の言いなりになっていたわけではない。たとえば、一九三八年の最初の訪日の際、日本側が、清朝がモンゴルに対して用いた「蒙疆」という呼称を強制したことに、徳王は激怒し、抗議文を送って改めさせている。

「『蒙古』の二字は民族のみならず、土地・人民をも意味しており（中略）これは歴史上昔から確定している名称であり、『蒙疆』と改称すれば、やはり中国の辺境であって、独立した蒙古政権ではなく、中国に隷属する地方政権を意味することになってしまうのである」（森久男訳『徳王自伝』）

日本の敗戦後、徳王は、一時、再び蔣介石やアメリカに接近、次いで、共産政権の外モンゴルへ走るが、結局、中国へ送還され、政治生命を断たれる。そんな彼を日和見主義者としか見られないとしたら、それは、他民族から徹底的に支配された痛みを知らぬものの発想かもしれない。戦後、内地へ送還される日本人に対し、徳王は「無事に帰れる祖国があっていいなあ」との感想をもらしたと伝えられる。

徳王と会見したオーエン・ラティモアは、彼が「日本について幻想を持ったことは一度もなく」、あらゆる人物を、政治的信条よりもモンゴル統一への思いの有無だけで、敵か味方か判断していたと述べている。

徳王は、日本にも中国にも魂だけは売らなかった。彼は天皇にも対等の国家元首として対したし、共産党政権下で成立した自伝にも、不必要な自己卑下はないのである。

▶日本との蜜月期の徳王（右）。陸軍の高級将校と。

一歩先取りした形で、人々に強烈な印象を与えたのである。

大阪も同様で、司会の藤本義一は、アシスタントの安藤孝子や医師の木崎国嘉らのレギュラー陣とともに、バーカウンターを前にして座り、酒を飲みながら大阪の庶民の本音を語り続けた。この新趣向とともに、カウンターの中からバーテンダーが、さりげなく日本の洋酒メーカーのウイスキーを注ぐといったタイアップ広告も新鮮だった。こうした中で、四三年、小島正雄が急逝し、東京の番組はすべて大橋巨泉が担当することになる。

時代は高度成長の真っただ中。仕事で疲れた頭や体を癒すこともなく、翌日再び仕事に向かわざるをえない日々の暮らしの中で、仕事もしろ、ただし遊びも、一生懸命にやれ、という番組からの呼びかけには、強いインパクトがあった。

今、大橋巨泉は、この番組が社会にどのような影響を与えたかを、

「政治も経済もストリップも同じ次元でとらえるという姿勢、本音で語ろうという態度、常に時代の先取りをしようという精神は、何らかの役割をはたしたんじゃないか。ゴルフや競馬や麻雀が市民権を得たのも『11PM』からだと思う」

と語る。

番組が始まった頃、まぎれもなく深夜であった時間帯は、やがて深夜とは呼ばれなくなった。「11PM」は平成二年三月、その役割を終えた。

▶人気コーナー「イレブンダービー」のスタジオ。視聴者参加にも力が入れられた。

往きて還らぬ

▲9月4日　A・シュバイツアー(90)
人類奉仕の信念のもと、1913年アフリカのランバレネに病院建設。生涯を住民医療に捧げ、1952年ノーベル賞受賞。

▲1月24日　W・チャーチル(90)　イギリスの元首相で、第2次世界大戦時は連合軍の勝利に貢献。1946年、欧州統合を提唱した。1953年ノーベル文学賞受賞。

▲1月4日　T・S・エリオット(76)
イギリスの詩人、劇作家。現代詩劇の先駆者で、作品に「岩」「伽藍の殺人」など。1948年ノーベル文学賞受賞。

▲12月16日　サマセット・モーム(91)
風刺と物語性に富んだ作品で知られるイギリスの小説家で、代表作に「人間の絆」「月と6ペンス」など。

▲7月30日　谷崎潤一郎(79)
耽美派の小説家として知られ、代表作に「痴人の愛」「細雪」など。昭和5年、妻を佐藤春夫に譲渡しスキャンダルに。

▲1月27日　三船久蔵(81)
柔道10段。小柄な体で大技を連発、世界の柔道界から"小さな巨人"と呼ばれた。「空気投げ」などの新技も創案。

▲12月29日　山田耕筰(79)
作曲家。日本のクラシック界の草分けで、日本歌曲も多く残した。「からたちの花」「この道」「赤とんぼ」など。

▲8月13日　池田勇人(65)
昭和35年、安保騒動後の総理となり、「所得倍増」をスローガンに積極的な経済政策を行った。

▲2月15日　ナット・K・コール(45)
アメリカの歌手。クラブのピアノ弾きから歌手に転じ、持ち前のソフトでハスキーな歌声が世界的人気を呼んだ。

▲8月17日　高見順(58)
小説家。昭和10年「故旧忘れ得べき」で注目され、代表作の「如何なる星の下に」は映画化された。

▲7月28日　江戸川乱歩(70)
探偵小説家。「人間椅子」「陰獣」などの猟奇的な作品のほか、子ども向けの「怪人二十面相」などで人気を集めた。

▲1月6日　花柳章太郎(70)
俳優。水谷八重子とともに、戦後の新派のリーダーとして活躍。女形を得意とし、代表作に「明治一代女」など。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第15号 5月20日(火)発売 定価560円 本体533円
毎週火曜日発売 講談社

1966［昭和41年］

●**特集**
ビートルズがやって来た!/羽田沖、富士山上空、松山沖、連続飛行機事故/世界初の二〇万トン級「出光丸」進水!/死者四〇万人、混乱の一〇年!「文化大革命」始まる

●**ニュース・ファイル**
フォト+日録で再現する365日…川崎市で米軍のLST(戦車揚陸艦)が爆発(1月23日)/早大紛争、学生同士乱闘(2月12日)/今東光、平泉の中尊寺貫主に就任(5月1日)/こまどり姉妹襲われる(5月9日)/007の日本ロケ(7月29日)/「東洋の魔女」敗れる(8月6日)/大鵬、婚約(10月2日)/新宿駅西口広場完成(11月26日)

●**人物クローズアップ**
盛田昭夫の「学歴無用」論

●**決定的瞬間**
ベトナム戦争"泥沼の地獄"

●**美の出会い**
池田満寿夫がグランプリ受賞

●**女たちの肖像**…前田美波里、ポスター盗難騒ぎ/**勝者・敗者**…堀内恒夫が一三連勝!/**証言・あの日この日**…吉野秀雄、仲井戸麗市/**20世紀博物館**…ナイフ博物館(岐阜)/**「現場」を歩く**…原宿、暴走族と生え抜き住民/**外から見たNIPPON**…サルトルとボーボワールの来日

●**ベストセラー**…"原罪"を見つめた『氷点』と軽薄本『ヘンな本』ヒット/**スターと名場面**…性を追求した「人類学入門」/**モノ語り'66**…「チャルメラ」「ポッキー」「ママレモン」

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号(2月18日号)1959[昭和34年]

第2号(2月25日号)1964[昭和39年]

第3号(3月4日号)1945[昭和20年]

第4号(3月11日号)1970[昭和45年]

第5号(3月18日号)1963[昭和38年]

第6号(3月25日号)1958[昭和33年]

第7号(4月1日号)1972[昭和47年]

第8号(4月8日号)1980[昭和55年]

第9号(4月15日号)1976[昭和51年]

第10号(4月22日号)1989[平成元年]

第11号(4月29日号)1960[昭和35年]

第12号(5月6日号)1961[昭和36年]

第13号(5月13・20日号)1962[昭和37年]

■今後の刊行予定

第16号(6月10日号)1967[昭和42年]

第17号(6月17日号)1968[昭和43年]

第18号(6月24日号)1969[昭和44年]

▶第19号(7月1日号)1941[昭和16年]6月17日発売
真珠湾攻撃●ゾルゲ事件●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦開始
▶第20号(7月8日号)1942[昭和17年]6月24日発売
ミッドウェー海戦●朝鮮人強制連行●戦争映画隆盛●ユダヤ人虐殺
▶第21号(7月15日号)1943[昭和18年]7月1日発売
学徒出陣●戦時下のグルメ●戦火に葬られた動物●「伊8号」帰投す
▶第22号(7月22日号)1944[昭和19年]7月8日発売
神風特攻隊●学童疎開●戦時下の科学技術開発●独軍降伏、パリ解放
▶第23号(7月29日号)1946[昭和21年]7月15日発売
東京裁判開廷●南海道大地震の衝撃●戦後闇市と戦災孤児
▶第24号(8月5日号)1947[昭和22年]7月22日発売
日本国憲法施行●「日曜娯楽版」スタート●新宿で額縁ショー
▶第25号(8月12日号)1948[昭和23年]7月29日発売
美空ひばりデビュー●福井に大地震●朝鮮半島、38度線の悲劇

ミニ事典
1965年のキーワード

朝日新聞社
▲1月23日ILO対日調査団が来日、政府・総評と会談した。

期待される人間像
文部省の諮問機関、中央教育審議会(会長・森戸辰男)が一月一一日に青少年のあるべき姿として発表した中間草案。祖国を敬愛し天皇を敬愛すること、社会秩序を重んじること、正しく日本や家庭を愛することなどがあげられ、教育界などから国家主義色が強すぎると批判をあびた。そのため、翌年に発表された最終答申では「別記」にとどめられた。

ILO八七号条約
一九四八年(昭和二三)にILO(国際労働機関)が採択した、労働者の結社の自由と、団結権を保障する条約。日本は昭和二六年にILOに加盟しながら、この条約を批准せず、三三年、総評などが提訴した。この年一月にドライヤー調査団が来日して日本政府に勧告したため、五月一七日、承認案が国会を通過、翌四一年六月一四日、やっと発効した。

ピリン系薬剤
化学構造上、ピラゾロン環を持つアンチピリン、アミノピリンなどの解熱鎮痛剤。ピリン疹などのアレルギーを起こしやすく、死にいたる場合がある。二月二〇日、厚生省の要請で大正製薬とエスエス製薬がアンプル入り風邪薬の販売を停止、各地の薬局も販売を自粛するが、ピリン系だったためである。二月にはこの風邪薬で五人も死者が出ていた。

町名変更反対運動
昭和三七年五月、住居表示に関する法律が公布され、町名地番の統一と改変が決まった。東京では昭和三八年に練馬区から新表示が始まったが、歴史的条件や住民の意向を無視したため、各地で反対運動が起こった。この年三月一日には文京区向丘弥生町が、根津に変更されることを不服とし、住民が東京地裁に取り消し請求訴訟を起こしている。

LST
戦車揚陸艦の英語の略。海岸から直接、車両を陸に揚げる船。ベトナム戦争で、米軍が軍需物資輸送などにさかんに使用。これに日本人が就労と新聞に載ったため社会問題となった。しかも四月一四日、政府は日米安保条約に基づき乗員斡旋を行うと言明、日本のベトナム戦争への加担の象徴のひとつとなった。

朝日新聞社
▲短期間・低予算で作られたピンク映画の撮影現場。

ピンク映画
昭和三〇年代後半の映画不況を背景に登場した低予算のポルノ映画。三九年から四〇年にかけて「エロダクション」と呼ばれた製作会社が、一〇社から六〇社に、製作本数は九八本から二一八本にもふえた。多くは粗製濫造だったが、六月末、ベルリン映画祭に「壁の中の秘事」が出品されたことで一躍有名になった若松孝二など、注目すべき人材の輩出によって無視できない分野となった。

日本青年海外協力隊
医療・農業・建築・教育などの専門技術を持つ青年を発展途上国に派遣し、開発を支援する組織。略称JOCV。六月一〇日、海外技術協力事業団に、その推進母体となる協力隊協議会が発足。一二月二四日、三ヵ月の研修を終えた第一陣五人がラオスに出発。昭和四九年、国際協力事業団に統合され、平成六年には五九ヵ国に二二二九人が赴任した。

朝日新聞社
▲エレキギターにはモンキーダンスがつきものだった。

エレキ族
仲間とエレキギターのバンドを組む若者たち。アメリカからベンチャーズが来日、エレキサウンドの「ダイアモンド・ヘッド」などのヒットがビートルズの爆発的な人気とともに、ブームに火をつけた。また六月にフジテレビで始まった「勝ち抜きエレキ合戦」が、バンド熱をさらに過熱させた。素人バンドは東京だけで二〇〇〇組にも達したという。

新潟水俣病
新潟県の阿賀野川流域で発生した有機水銀による中毒で、水俣病に似た症状を示し、第二水俣病とも言う。六月一二日、新潟大学の二教授が、すでに二人死亡と発表。患者は脳神経を冒されて失明、全身がしびれ、衰弱して死亡した。毛髪から通常の五〇倍にあたる五〇〇ppmの有機水銀が検出された。四二年、厚生省は原因を昭和電工鹿瀬工場の排水と特定、四三年に公害病と認定した。

みどりの窓口
国鉄が九月二四日から始めた特急・急行の座席指定券と寝台券をコンピュータによって発売するサービス。全国一五二の主要駅と八三の交通公社営業所に開設。これによって切符販売業務の合理化はいちだんと進み、駅や営業所の端末機の回線を、東京・秋葉原の乗車券センター中央装置と接続するだけで、座席の有無が瞬時にわかるようになった。

赤字国債
一一月一九日、閣議が第二次補正予算案の大筋を決定、四〇年度の歳入不足分二五九〇億円は国債発行でまかなうとし、戦後初の赤字国債の発行となった。政府にとっては「四〇年不況」をしのぐ窮余の策だったが、社会党などの野党はインフレの危険を指摘、財政の先行きを読めなかった無策を厳しく追及した。しかし、利まわりの高い国債は評判を呼び、その後の景気上昇に一役買った。

『コンピュータ白書』
日本のコンピュータの普及、利用状況に関する初の報告書が、一一月二九日、日本電子計算開発協会から発表された。「第三世代を迎え転機に立つコンピュータ経営」と題するもので、設置台数はこの年三月で一八四〇台、アメリカに次ぐ数となったが、質・量ともにいぜんその差は大きく、日本が国際競争に打ち勝つためには、集積回路を利用した第三世代のコンピュータへの転換が急務であるとしている。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1965

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室+渡邉裕二
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
秋元啓一 桑原史成 沢田サタ 嶋元謙郎 但馬一憲 野上透 平野美津子 ポール・シュッツァー 村井実 渡部浩之 ARCHIVE・PHOTOS 朝日新聞社 アメリカン・フォト・ライブラリー 沖縄タイムス 共同通信社 くれせんと CORBIS・BETTMANN 時事通信社 Sportsillustrated TIME・LIFE タス TBS PPS Popperfoto 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP 大橋巨泉事務所 クラウンレコード 東映 東宝 日本航空 博物館明治村 NASA

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1965 ●ベトナムに米軍直接介入! 5月27日号
第1巻第14号 通巻14号
編集人 近藤達士 発行所 株式 講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21

定価560円
雑誌 23704-5/27 T1123704050566
Ⓛ-2001/1/1

印刷　凸版印刷株式会社　製本　木村製本株式会社